



編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第155号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

平成22年度 るのほな同窓会総会開催

平成22年度るのほな同窓会総会が、平成22年6月26日(土)午後4時より、千葉駅ビルペリエ5階芙蓉の間において開催された。

議事要旨は24面に掲載

会長挨拶

伊藤 晴夫 (昭39)

皆様には、本日はご多忙のところ、平成22年度の「千葉大学るのほな同窓会総会」にご出席戴きまして誠に有難うございます。今回は千葉県のるのほな会が当番幹事で、この素晴らしい会の準備をして頂いたわけでありました。御苦労さまで御座いました。改めて御礼申し上げます。

るのほな同窓会は、その歴史や規模において日本の医学部の同窓会のなかでも屈指のものと思います。現在、医療を取り巻く状況は厳しさを増しております。るのほな同窓会は以前にもましてその役割は重要になってきていると思えます。るのほな同窓会の目的は、第一は会員の親睦と医道の高揚であり、第二は、医学部の支援であります。千葉大学医学部は順調に発展しつつあります。附属病



院の新・改築も進み、完成すると東大病院以上の面積を有することになります。しかし、国の財政は逼迫し、運営費交付金は減額され、教員定数も削減されると聞いております。このように法人化後の医学部を取り巻く状況には厳しいものがあります。るのほな同窓会は、これまでも医学部に對して相応の支援を行って参りました。今後、米国の医学部同窓会活動のレベルに達するのはすくには難しいでしょうが、日本の私学の同窓会活動等も視野に入れた支援を行えればと思えます。さて、現在の最重要課題は、千葉大学医学部135周年

記念事業であります。その一つである135周年記念誌の出版は年内にも行われることと思えます。

また、「千葉医学の伝統」言語化プロジェクトも進んでおります。これにより千葉大学医学部の理念を具体的な言葉で表現できれば、卒業生、在校生、さらに、これから本学を目指す後輩や患者、市民などへの明確な親しみやすいメッセージになります。有名なものには「病気を診ずして病人を診よ」(東京慈恵会医科大学)がありますが、その他一文字から文章まで、学是や建学の精神がありま

す。このようなものを作ろうと云うものであります。事業のなかでも一番重要なものは「新るのほな同窓会館設立」です。募金に關しましては、皆様のご支援により多くの方々からご寄付を戴きました。あらためて厚く御礼申し上げます。現同窓会館は学生の種々の活動などに大いに役立っておりますが、老朽化による火災、震災時等の危険性から合宿は認められておらず、新同窓会館の早期着工に對する学生の期待には強いものがあります。また、卒業生、来学者に對しても本学の魅力を伝える一助に



なると考えます。

一方、当初に予定していた300席ほどのホールは附属病院とライフサイエンス棟にも設置される見通しとなりました。また、サークル会館もライフサイエンス棟の新築により、現在のサークル会館の一部が取り壊されるため、改修がなされるものと思えます。この様な状況もふまえ、同窓会事務局、多目的ホール、合宿施設を中心とした建物を、新同窓会館設立第一期工事として建設することになりました。

場所が医学部図書館の手前の現在駐車場となっているところであり、云わば、るのほな地区の中心であります。本日、その模型を展示致しますのでご覧頂ければ幸いです。なお、第二期工事としましては、資料室等を中心とした同窓会のシンボリックな建物の建設が考えられますが、今後の検討課題です。

るのほな同窓会では、同窓会報の充実という目標が一応達成されましたので、現在はホームページの充実に力を注いでおります。これに特に若い先生方に興味を持って貰えればと思えます。最近、動画を取り入れまして、講義や対談などの掲載を始めました。皆様のご参加をお願い致します。

これからの数時間、総会、るのほな同窓会賞表彰式、特別講演、懇親会と続きますが、有意義で楽しい会にして頂きますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。(総会の模様はオンライン会報に掲載)

功労賞
家本 誠一(家本医院、昭22)
「東洋医学の古典的文獻の研究」
学術賞
上原 雅恵(千葉大学大学院医学研究部循環病態医科学、平15)
「32列マルチスライスCTを用いた循環器疾患の新しい画像診断の開発」
平賀 陽之(千葉労災病院神経内科、秋田大・平11)
「脳梗塞の症候と責任病巣・拡散強調画像を用いた検討」
山本 正二(千葉大学医学部附属病院放射線部、附属病院A i センター、平4)
「千葉大学医学部附属病院におけるオートプシーイメージングの展開」

第15回(2010年度) るのほな同窓会賞 受賞者決定

紙面紹介

総会開催	2	1
就任挨拶	5	5
叙勲感想	5	5
るのほな同窓会賞	5	6
受賞によせて	7	10
各地るのほな会	11	14
クラス会	14	15
生誕百年記念	14	15
スキー部祝賀会	15	15
研修プログラム	16	18
研修医だより	16	18
会員から	19	18
追悼文	20	20
著書紹介	20	23
議事報告	24	25
会館設立	24	25
雑文雑談	26	31
編集後記	32	32

就 任 挨 拶

東京女子医科大学

八千代医療センター病理診断科

教授 廣 島 健 三 (昭54)



本年4月1日付けで東京女子医科大学八千代医療センター病理診断科教授に就任いたしました。おのほな同窓会の先生方をはじめ多くの方々にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は昭和54年卒業で、旧肺病研究施設第二臨床部門に入局し、渡邊昌平教授(昭20)、栗山喬之教授(昭43)に指導をしていただきました。呼吸器内科、第一内科、第三内科、神経内科のローテーションを終えたのち、1980年10月から半年間、国立千葉病院の麻酔科で、伊東和人先生(昭23)に麻酔の指導を受けました。1981年4月から一年間、沼津市立病院内科に出張し、内科部長の永井順先生(昭34)に、胃カメラ、腹部エコーなどのご指導をい

たいただきました。1982年4月から一年間、旧肺病研究施設第二臨床部門で、呼吸器内科医としてのトレーニングを受けました。四年間の臨床研修の間に、病理診断が治療方針を決定する上で極めて重要な位置を占めていることを実感し、1983年4月から四年間、肺病研究施設病理研究部門(肺研病理)で、林豊教授(昭25)の指導を受けました。はじめの半年間は、第二病理学で近藤洋一郎教授(昭33)に病理解剖の指導をうけ、第一病理学の岩崎勇先生(昭35)、長尾孝一先生(昭36)にも、病理学の基礎を指導していただきました。同年10月からは、オゾンの吸入による急性肺傷害とその修復過程を解明するため、光学顕微鏡と電子顕微鏡で、暴露後の肺の変化を詳細に検討しました。電子顕微鏡は永野俊雄教授(昭30)に指導をしていただきました。永野先生は電顕懇話会を主催されておられ、私も発表の機会をいただきました。現在、細胞増殖能は免疫染色でKi-67の標識率をみることで、より容易に評価できますが、当時は免疫染色が普及しておらず、アイソトープを用いたオートラジオグラフィにより細胞増殖能を評価しました。これらの結果をまとめて、学位を取得いたしました。また、伊東和人先生には1983年以降週に半日、麻酔の指導をしていただき、麻酔の経験が300例以上に達したため、厚生省(当時)から麻酔科標榜医の資格をいただきました。

1987年から二年間は、栃木県厚生農業協同組合連合会塩谷病院に内科医長として勤務をいたしました。瀧澤弘隆院長(昭40)には、診療でも、学会発表でもご指導をいただきました。塩谷病院には解剖室がなかったため、国立栃木病院までご遺体を搬送し、解剖室を借りて、自分で病理解剖を行なったことが懐かしく思い出されます。

1989年から再び、肺研病理に戻り、病理医として生きていくことを決意しました。1990年8月より1992年2月まで、ニューヨークのマウント・サイナイ・メ

デイカル・センターに留学させていただき、Irving J. Slikoff先生のもとで、石綿や中皮腫の研究を行いました。帰国後は、肺研病理で大和田英美先生(昭38)から呼吸器病理の指導を受けました。1994年に大和田先生が教授に就任したのち、豊崎哲也先生(昭58)、高野浩昌先生(昭63)、渋谷潔先生(富山医大・昭61)たちと一緒に肺癌やその前癌病変、縦隔腫瘍などの組織像、蛋白発現、遺伝子異常などを検討しました。その後、伊豫田明先生(信州大平3)とは大細胞神経内分

泌癌の研究をし、伊豫田先生は臨床データを私は病理学的データをまとめ、多くの論文を発表することができました。これらの結果は、WHOの組織分類(2004年版)や欧米の病理の教科書でしばしば引用されています。また、肺の神経内分分泌腫瘍の研究をしている病理医は少ないためか、後に米国の出版社から小細胞癌に関する分担執筆の依頼があり、2008年にSpringer社から、2009年にNova Science社から単行書が出版されました。2001年に肺癌研究施設は改組により消滅し、呼吸器外

科、呼吸器内科、基礎病理学が独立した教室となりました。2004年に基礎病理学の教授に就任した中谷行雄先生(横浜市大・昭53)は附属病院病理部の部長を兼任され、私も附属病院で病理診断を行いました。この間の経験が、現在の八千代医療センターの仕事に大いに役立っています。

2000年前後から中皮腫症例が増加しだし、2005年に石綿の環境暴露でも中皮腫が発症することが明らかになり、2006年3月に石綿健康被害救済法が施行されました。私は中央環境審議会の委員としてこの審査に加わり、月に一回、100件程度の審査を行っています。また、千葉労働局に労災補償を求めて石綿関連疾患として申請された症例の審査を行い、2009年8月に始まった全国の労働局に申請された症例を検討する「石綿確定診断委員会」にも参加しています。2007年には千葉市で第14回石綿・中皮腫研究会を開催し、スウェーデンのカロリンスカ大病院のGunnar Hillerdal先生に特別講演をしていただきました。

八千代医療センターでは、伊藤達雄名誉院長(昭42)、寺井勝院長(昭53)、佐藤二郎副院長(昭56)、糖尿病・内分泌代謝内科の橋本尚武先生(昭55)、発達小児科の林北見先生(昭54)、呼吸器外科の関根康雄先生(昭62)、小児外科の幸地克憲先生(昭63)ほか多くのおのほな同窓会の先生が活躍されています。病理診断科は河上牧夫先生(東医歯大・昭43)、中野雅行先生(昭45)が教授を務められました。この四月からは、河村俊治先生(京府医大・昭62)が、一緒に働いています。四年前の開院当初よりバーチャルスライドを導入し、電子カ

ルテにはマクロ画像とミクロ画像を添付し、臨床の先生が報告書を読む際に理解しやすいように努力をしています。私が就任してから要求されている研修医が病理解剖所見とそれに基づく考察を発表する「教育型CPC」を行っております。今後は、日本病理学会の病理専門医研修認定施設の資格を取得し、病理専門医を目指す医師の指導も行いたいと思います。

おのほな同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

私は昭和55年に千葉大学医学部を卒業し、産婦人科学教室(高見澤裕吉教授(昭27))に入局いたしました。初期出張は栃木県の厚生連石橋病院と塩谷総合病院(現国際医療福祉大学塩谷病院)で研修させていただきました。石橋病院では小林聡介先生(昭37)に「産婦人科のいろは」を、高野昇先生(昭31)に手術

主任教授 松 井 英 雄 (昭55)

東京女子医科大学 産婦人科学講座



のほな同窓会の先生方におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。この度、平成22年5月1日付をもちまして東京女子医科大学産婦人科学講座主任教授を拝命いたしました。これまで私の臨床・研究・教育を御指導く

ださいました先生方にはこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。私は昭和55年に千葉大学医学部を卒業し、産婦人科学教室(高見澤裕吉教授(昭27))に入局いたしました。初期出張は栃木県の厚生連石橋病院と塩谷総合病院(現国際医療福祉大学塩谷病院)で研修させていただきました。石橋病院では小林聡介先生(昭37)に「産婦人科のいろは」を、高野昇先生(昭31)に手術

手技の基本を教わった気がします。昭和58年千葉大学に帰局し、絨毛癌化学療法の研究を命ぜられました。当時の再発・薬剤抵抗性絨毛癌の予後は50%程度でありましたが、エトポシドの導入、更にγ-GCを併用した化学療法により予後は90%近くに向上しました。大学では研究のみならず広汎子宮全摘、広汎外陰切除など一般病院では経験できない臨床を高見澤名誉教授(昭27)、稲葉憲之先生(昭47)(現獨協医科大学産婦人科講座主任教授)、森川眞一先生(昭49)、岩崎秀昭先生(昭51)より教わりました。研究面では関谷宗英前教授(昭40)、関克義先生(昭43)にリサーチマインド、英文論文のまとめ方など貴重なことを教わりました。平成20年10月に生水真紀夫教授(現千葉大学産婦人科教授)のご高配により千葉大学生殖機能病態学准教授から成田赤十字病院に出張させて頂きました。成田赤十字病院では同級生の産婦人科部長上杉健哲先生(昭55)、加藤誠院長(昭47)など大変お世話になり、また女子医大教授就任が決まった時にも快く送り出して頂き感謝しております。

東京女子医科大学は消化器病センターを創設された故中山恒明教授(昭9)、羽生富士夫名誉教授(昭29)、消化器内科の小幡裕名誉教授(昭28)、など千葉大学を卒業された先生たちが多数活躍されている病院であります。東京女子医大創設者の吉岡弥生先生は産婦人科を専攻されており、女子医大発祥の診療科として現在でも産婦人科を希望する女子医大卒業生の方も多いと聞いております。東京女子医科大学産婦人科学講座は昭和6年の堤辰郎初代教授が開講されて以降、私で7代目となる由緒ある教室であり、都内

11ヶ所の総合周産期センターの一つとして、地域からの期待度は高く、また私の専門である悪性腫瘍の患者も多数来院しております。現在産婦人科医師を希望する学生の3/4以上が女性医師という時代となり、今後は女性医師が産婦人科医療を支えていかなければならない時代となってきました。産婦人科を専攻する医師にとつて楽しく、また有意義な教室を作るべく微力ではございますが、最善を尽くす所存でございます。あのはな同窓会の先生方には今後とも宜しくお願い致します。

まりましたが、現在、教授、講師1人、助教1人、医員2人、後期研修医1人の計6人体制で診療にあたっております。前任の野守先生時代の教室業績には目を見張るものがあり、責任の重大さを痛感しており、身の引き締まる思いであります。私は平成元年に千葉大学を卒業し、故山口豊教授(昭31)のもと肺病研究施設外科(肺外科、現在の呼吸器病態外科)に入局しました。以後、麻酔科研修、救急医療研修、小田原市立病院外科、千葉大学肺外科、千葉県がんセンター等を経て、平成8年には飯笹俊彦先生(現千葉県がんセンター呼吸器科部長)指導のもと肺病浸潤転移に関係する細胞外マトリックスメタロプロテアーゼの研究で学位を取得しました。その後、千葉県がんセンター、大宮赤十字病院、千葉大学を経て、当時の藤澤武彦教授(昭42)のご配慮により平成13年10月から2年間米国テキサス大学に留学する機会をいただきました。帰国後、千葉県がんセンターから平成17年に千葉大学呼吸器外科に異動となりました。異動後はしばらく大学にお世話になりましたが、吉野一郎教授の推薦もあり、この度熊本大学呼吸器外科に異動となりました。

熊本県は人口184万人で、年間1,000人ほどが肺癌に罹患しています。熊本大学呼吸器外科では年間約100例の肺癌切除例があります。まだまだ呼吸器外科医は不足しており、後輩の育成は急務です。幸いにして、今年後期研修医が一名入局しました。肺癌切除成績は一般的に5年生存率が66%と言われており、まだまだ改善の必要があります。診断・治療技術向上に加え、肺癌基礎研究も重要であろうと考え

ています。最後に、今まで紙面では書き尽くせないくらい、先輩、後輩、コメディカル、そして多くの患者さんに支えられてきたことに感謝しております。また千葉大学、そして千葉での27年間に感謝しております。今後は、熊本大学呼吸器外科発展のため全力を尽くす所存であります。大学は違いますが、千葉大学あのはな同窓会のみなさまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

期研修医を含め240名程在籍し、出身大学は60校を数える程の混成チームとなっております。24時間救急が特徴でもあります。一方、千葉大学医学部同門のメンバーは30名程で、総合診療部、内分分泌内科学、血液内科、リウマチ膠原病内科、外科、消化器病センター、泌尿器科、救急センターには部長をはじめ多数の医師が千葉大学より派遣されております。特に、この4月からは、既に副院長である尾崎正彦(第二外科)先生(昭52)に加えて、山口邦雄(泌尿器科)先生(昭53)も副院長に昇格し幹部として運営にあたっております(当院副院長は4名)。



熊本大学大学院
生命科学部呼吸器外科学分野
教授 鈴木 実(平元)

平成22年4月1日をもちまして、熊本大学大学院生命科学部呼吸器外科学分野教授を拝命いたしました。熊本大学医学部附属病院は、市内中心部に位置し、熊本城まで徒歩で十数

分の所です。呼吸器外科領域の患者さんは、市内はもちろん県内各地から紹介されてきます。熊本大学呼吸器外科の設立は新しく、国立大学法人化に伴い、臓器別再編が行われた時期に重なります。平成17年4月に初代教授野守裕明(現慶応大学教授)先生が着任し、正式に熊本大学呼吸器外科が発足しました。当初は教授、助教、医員の3人で始

り、この度熊本大学呼吸器外科に異動となりました。熊本県は人口184万人で、年間1,000人ほどが肺癌に罹患しています。熊本大学呼吸器外科では年間約100例の肺癌切除例があります。まだまだ呼吸器外科医は不足しており、後輩の育成は急務です。幸いにして、今年後期研修医が一名入局しました。肺癌切除成績は一般的に5年生存率が66%と言われており、まだまだ改善の必要があります。診断・治療技術向上に加え、肺癌基礎研究も重要であろうと考

えています。最後に、今まで紙面では書き尽くせないくらい、先輩、後輩、コメディカル、そして多くの患者さんに支えられてきたことに感謝しております。また千葉大学、そして千葉での27年間に感謝しております。今後は、熊本大学呼吸器外科発展のため全力を尽くす所存であります。大学は違いますが、千葉大学あのはな同窓会のみなさまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

期研修医を含め240名程在籍し、出身大学は60校を数える程の混成チームとなっております。24時間救急が特徴でもあります。一方、千葉大学医学部同門のメンバーは30名程で、総合診療部、内分分泌内科学、血液内科、リウマチ膠原病内科、外科、消化器病センター、泌尿器科、救急センターには部長をはじめ多数の医師が千葉大学より派遣されております。特に、この4月からは、既に副院長である尾崎正彦(第二外科)先生(昭52)に加えて、山口邦雄(泌尿器科)先生(昭53)も副院長に昇格し幹部として運営にあたっております(当院副院長は4名)。



横浜労災病院
病院長 西川 哲男(昭47)

あのはな同窓の皆様にはご無沙汰致しております。横浜労災病院は横浜市北東部医療圏の地域中核施設として1991年(平成3年)に創設され、現在では労災病院群の中でもリーディングホスピタルとして、研究業績も多数排出してきた高度機能病院として発展しております。昨今の事業仕分け

の注目の的の一つである独立行政法人労働者健康福祉機構が当院の本部となります。開設以来、桑原武夫(東大脳外科)、元横浜市大脳外科教授、阿部薫(東大第一内科)、元国立癌センター総長、藤原研司(東大第一内科)、元埼玉医科大学消化器内科教授、先生が院長であり、本年4月より4代目の院長に就任致しました。

さて、当院は、650床で外来1,800人/日、平均在院日数11日の高度急性期病院となっております。医師は初

した。二内に戻り都合19年間大学にて診療研究に従事致しました。その間旧病院から現在の新病院移転も経験し、千葉大学の近代化する元気で澁刺とした時代を過ごしました。懐かしい思い出としては、米国ZEPに留学し、副腎ステロイド研究に従事したことです。

神戸大学長でもあった、生化学の西塚泰美教授の推薦で留学致しました。西塚先生とは長年、細胞内情報伝達機構の仕事でお付き合い戴きました。それは、1981年の事ですが日本は高度成長期で、米国では日本製テレビ、車メーカー叩きが盛んな時でした(1ドル=250円)。その頃、小児科教授の河野陽一現千葉大学病院長(昭48)も近くに住まわられていてロックビル(メリーランド州で、ホワイトハウスから車で40分程の緑豊かな町)は私の故郷となりました。帰国してからは、医局長、学会事務局等多くの経験をさせていただいた後に、自治医科大学から熊谷先生の後任で第二内科教授に就任された吉田尚先生の勧めでこちらに赴任いたしました。1991年に赴任後は「新しい病院」創りに携わり、2000年副院長、2010年4月

には院長となりました。

最後に、医局時代から終始叱咤激励いただいた齋藤康学長に心から深謝申し上げます。また、当地赴任以来、懇意にいただいた神奈川のはな会長の富田裕先生(昭30)には、千葉医大魂を沢山教えていただ

安房地域医療センター

病院長 水谷正彦(昭52)



平成22年4月1日付けで、社会福祉法人太陽会安房地域医療センター院長に就任いたしました。

私は昭和52年千葉大学を卒業し、第一外科(現臓器制御外科)入局。伊藤健次郎教授(昭15)、奥井勝二教授(昭28)の下、肝胆脾

外科を中心に学び、昭和61年千葉市立病院(現青葉病院)就職。その後、八日市場市民総合病院(現匝瑳市民病院)、市原市民病院を経て、平成19年4月安房医師会病院副院長として就任しました。

千葉大学医学部の研究成果が世界貢献する事を念じて、今後とも同門の皆様と親しくお付き合い戴き、従前にもまして、ご支援の程呉々も宜しくお願い申し上げます。

きました。

療を担って来ましたが、看護師の離職↓病棟一部閉鎖↓業績悪化から医師会が経営断念。平成20年4月社会福祉法人太陽会が経営移譲を受け、安房地域医療センターとして再出発しました。鉄蕉会亀田メディカルセンターの協力を得ながら丸2年が経過し、ようやく経営改善が見えてきたこの時期に、安房医師会病院時代から長く院長を勤められてきた上村公平先生の後を継ぐことになりました。

メディカルディレクター、事務部の長も代わり新たな船出となりました。4月は医師の大幅な交替、常勤医の減少、特に循環器内科、呼吸器内科の常勤医がいなくなり、更に新電子カルテの導入も重なり、入院患者数を制限することとなり、地域住民の方たちに

大変ご迷惑をおかけしました。現在は総合診療科医が増え、ひと段落したところですが、一時不足していた看護師も徐々に増え、14床のフル稼働に向け努力しているところです。

当センターは365日24時間の救急が課せられています。救急医療の更なる拡充は必要ですが、それだけでは二次救急の遂行はできません。救急のバックアップをするだけの質の高い急性期医療の提供が不可欠です。専門医の確保に向けて亀田メディカルセンターと連携を深めることは不可欠ですが、当センター本来の常勤医も確保を目指しているところです。

現在、救急の強化、透析の拡充、これから需要の増すであろうリハビリの拡充のために新しい棟の新築が着々と進んでいます。来年中には完成し、ここには医局も入る予定です。常勤医確保、さらには研修医の教育にも役立ってくれるものと考えています。

また、地域医療を志す初期研修医の受け入れも考え、来年から地域ジェネラルコースとして始められるよう計画を進めています。

病院職員の元気がなければ、患者様にも元気を与え

ることはできません。職員がやる気を持って働ける、明るい職場を作り、360余名の力を結集し、地域住民に貢献できる安房地域医療セ

ンターにしていきたいと考えています。今後とも、温かいご教授、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

県内では昭和48年に開学した獨協医大に多くののはな同窓の先輩後輩が在籍されています。崎尾秀彰前救急医学教授(昭44)、稲葉憲之産婦人科教授・副学長(昭47)、福田健呼吸器・アレルギー内科教授(昭48)や私の同級生である深澤一雄産婦人科教授ほか多くの同窓の先生が活躍されており心強いかぎりです。

当院の病床数は一般392、精神120で、地勢的には栃木県の西部医療圏に位置しており、鹿沼市、日光市人口20万人の基幹病院になっていきます。総合病院としての機能に加え災害拠点病院、へき地医療拠点病院などの社会的役割を担っています。

また本年4月より地域がん診療連携拠点病院に指定されました。当院も多くの歴史ある病院と同様に増築を繰り返したため迷路化し、病棟は築40年以上経過し老朽化しています。現在病棟外来の新築計画が立ち上がっており本年度中の着工、平成25年度中の竣工を目標んでいます。この機会に地域の医療ニーズに応えたスリムで機能的な急性期病院を構築する所存です。

私は昭和55年に卒業し直ちに第一外科に入局いたし

上都賀総合病院

病院長 十川 康 弘(昭55)



このたび、平成22年4月1日付けにて上都賀総合病院病院長を拝命いたしました。のはな同窓会の諸先生に謹んでご挨拶申し上げます。

当院は昭和10年の開院から今日まで75年の長い歴史があります。当院編纂の「五十年の歩み」によれば、当時の国内は農業恐慌によつて農村の困窮にあえいでおり医療を受ける機会を確保するために自らの手で医療利用組合を組織し当院が設立されました。その後昭和13年に佐野病院、下都賀病院、石橋病院が、昭和17年塩谷病院が設立され、栃木県の農山村部の医療が確立し今日に受け継がれて

おります。

初代病院長は名古屋大学

桐原外科からの派遣でしたが、昭和29年に千葉大学第二内科の渡辺常美先生(昭19)が第8代病院長に着任されて以後、昭和31年より第一内科の石塚正治先生(昭18)、昭和60年より整形外科の大井利夫先生(昭35)、平成13年より第一外科の田代重彦先生(昭43)、平成19年より第一内科の一戸彰先生(昭45)に引き継ぎ第13代の私まで千葉大学との関係が続いております。

県内には栃木県のはな会会長の坂田早苗先生(昭34)、五味測諒一先生(昭31)、早乙女勇先生(昭48)など多くの当院OBが活躍されています。現在第一内科、第二内科、第一外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、放射線科の関連病院になっていきます。千葉から遠いことなど関連継続に厳しい地理的条件ではありま

すがご支援の程よろしくお願いいたします。

ました。入局の年に奥井勝二先生が教授に就任され第一期生の列に加えていただきました。大学での研修以外に茨城県西総合病院、浦賀病院、国立横浜東病院、聖隷横浜病院にお世話になりました。

医師としての序盤10年間は無我夢中で先輩のご指導

受章の挨拶

瑞宝中綬章

並みの基礎医学教授の回顧



永野 俊 雄 (昭30)

1930年生まれ子供の頃は虚弱で、成人できるか不安であったが、幸い1951年千葉大学医学部、新制度第1回生として入学した。当時は空襲で焼け残った建物やバラック建ての講義室で授業を受けた。それでも先生方は復興に燃えていた。基礎医学の講義に魅力を感じ、浪人せずに入学できたので、基礎医学専攻を心していった。卒業時に、故鈴木重武、野中俊郎先生(昭

のもとと自身の技術の習得に励みました。中盤では後輩の育成の一助になることに誇りと喜びを感じていました。そしてそろそろ終盤に入ろうかとしておりますが地域社会の中で次の世代に継続できる医療システム構築を通じて社会に恩返しできればと考えています。

18)の薦めでインターンを受けず、大学院に入った。医師免許なしでも基礎医学専攻者が少ないので、将来問題は無いであろうと勧められた。鈴木教授(実験発生学専攻)はその年に白血病となり、急死され、野中先生は他大学院に教授として赴任されることが決まっていたので、途方に暮れた。諸先輩のお世話で森田教室の大学院に再入学する事になった。ここでは電子顕微鏡が導入されたばかりで、細胞学を専攻する事になった。これが小生の進路の転機となった。森田教授から古典的な細胞学の論文の抄読、黒住一昌先生(昭24)

から電子顕微鏡の基礎と英語論文の読み方を教えられた。また、加賀谷勇之介、赤松茂、鈴木正夫諸先生から副科目の講義を1対1で受けた。新制大学院修了者のうち講座名の順番により筆者が新制医学博士第一号となった。

大学院修了の少し前に、アメリカ留学の機会が出来た。誰の推薦者もなく、無謀にも留学したいと手紙を出した。指定された日本の諸先生から面接を受け、1959年夏にシアトル、ワシントン大学に留学した。幸運にもベネット教授は鳥取生まれで、「電子顕微鏡による医学研究者を育てる」とのプロジェクトで、世界中から若い人が集まっていた。色々な国の人達と友人となれたが、多くは他界されている。当時アメリカと日本の大学レベルはあらゆる点で桁違いであった。ここで撮った電子顕微鏡写真が色々な組織学の教科書に引用された。国際学会も経験し、1961年帰国した。またZ[田]から研究費も与えられた。これで、電子顕微鏡の設備が整った。

1967年比較的に早く教授になった。電子顕微鏡は研究手段として、花形だったので、各科からの大学院生の

研究を手伝った。各科に関連した研究課題を選んだが、口頭で指導した論文には共著者とならなかった。解剖学教室では、国際的な雑誌に論文を出すことを目標とした。一時は先頭集団を垣間見ることもあるが、世界的な研究水準を保つことの困難さを実感した。幸い、1996年に定年となるまで、途中病気を何回かしたが、お陰様で働けた。教授在任中に300名以上の医学部学生と接することが出来た。講義の合間に、勇気づけるため千葉大学卒業生で誇れるのは、中山恒明教授と多田富雄教授だと云っていたが、両教授は他界された。1990年頃から発展した遺伝子工学応用の研究は小生の力不足から出来なかった。研究業績は誇れるものはないが、並みの教授として後悔はない。手前味噌だが最近千葉大学同窓生へのアンケートで、千葉大学の名物教授のベスト5になった。この中で存命なのは小生だけである。

定年後15年近く過ぎたが、今考えるとあつという間であった。お陰様で、この年まで、健康を保てた。各方面の臨床同窓会のお陰である。今後、残された人生を楽しみたいと思っ

るの はな 同窓会賞 受賞によせて

功 勞 賞



家本 誠 一 (昭22)

この度は名誉ある同窓会賞功勞賞の受賞に与かりまして大変光栄に存じます。心から御礼申し上げます。

『素問』は二千年前、中国は漢の時代に作られた医学書です。現代ヨーロッパ医学に匹敵する内容と実力を持った医学が記されています。『素問』は姉妹篇の『靈樞』と合せて『黄帝内経』と呼ばれています。この本は中国においても日本でも、難しくこれまでに正確に読んだ人はいりません。徳川時代の本居宣長も難しく理解出来ないといひ、昭和の医師、田中吉左衛門先生も注釈書『素問』第二冊の巻頭言で難しく分らないと述べています。

この度は名誉ある同窓会賞功勞賞の受賞に与かりまして大変光栄に存じます。心から御礼申し上げます。

『素問』は二千年前、中国は漢の時代に作られた医学書です。現代ヨーロッパ医学に匹敵する内容と実力を持った医学が記されています。『素問』は姉妹篇の『靈樞』と合せて『黄帝内経』と呼ばれています。この本は中国においても日本でも、難しくこれまでに正確に読んだ人はいりません。徳川時代の本居宣長も難しく理解出来ないといひ、昭和の医師、田中吉左衛門先生も注釈書『素問』第二冊の巻頭言で難しく分らないと述べています。

早く叙勲を受けたことに申し訳なく思っている。天命を全うした時千葉白菊会員として医学部学生の教材となるつもりである。

この度は、るの はな 同窓会賞に選出して頂き、誠に

学 術 賞



上原 雅 恵 (平15)

千葉大学大学院医学研究院 循環病態医科学

この度は、るの はな 同窓会賞に選出して頂き、誠にありがとうございます。これまで大学で行ってきた320列マルチスライスCTを用いた循環器領域の研究が評価され、るの はな 同窓会賞という名誉ある賞に表彰された事を非常に光栄に思っています。

平成の現在、二種の注釈書が世に出ています。一つは日本人の訳、いま一つは現代中国の注釈書の翻訳です。残念ながら二つとも正解には遠い存在です。

この度受賞に与りました私の『素問訳注』が世界で始めて正確に解釈した注釈書です。

本書を同窓会賞にお選び下さった選考委員会に心から敬意を表します。『素問』、

感激これに過ぎるものがございます。重ねて厚く御礼を申し上げます。有難うございました。

千葉駅ビル、五階のペリエホールに於いて華々しく行われました授賞式で会長先生より立派な楯を拝受いたしました。

私は、平成15年に大学を卒業し、大病院及び関連病院で研修を終えた後、平成18年に大学院に入学しました。以前より循環器領域の画像診断に興味を持っており、中でも最近進歩が著しいマルチスライスCTの研究に携わりたく思い、船橋伸禎先生(平元)のもとで勉強させて頂く事になりました。マルチスライスCTを用いて心電図同期撮影を行う事により、絶えず拍動している心臓を完全に静止した画像として捉えられるようになり、これまでは冠動脈造影検査のみ評価を行っていた冠動脈をもCTで評価する事が可能となってきました。年々機種改良、そして列数の増加が進み、現在では320列CTが開発され多くの施設で使用されるようになってきています。

これまで私達は、この320列CTの特性を生かし、冠動脈病変の検出力を冠動脈造影検査と比較、又、不整脈を有する症例での320列CTを用いた冠動脈評価について解析を行ってきました。マルチスライスCTは、これからの進歩が期待される分野であり、今後も解析や

学術賞

千葉労災病院神経内科

平賀陽之(秋田大・平11)



このたびは、るのほな同窓会賞を授与頂きまして心よりお礼申し上げます。ご指導頂きました先輩はじめ諸先生方、一緒に研究・診療をさせて頂いた先生方に深く感謝申し上げます。私は平成11年に秋田大学を卒業して同年本学神経内科教室(服部孝道教授(昭42))に入局しました。その後鹿島労災病院・松戸市立病院で研修を行いました。特に福武敏夫先生(昭56)、新井公人先生、小島重幸先生、南雲清美先生に

研究を積み、臨床の場で役立つデータを出したいと思っています。最後に、同医局に所属されております船橋伸禎先生及び小室一成教授の御指導のもとに、このような名誉ある賞を頂く事が出来ました。心より感謝申し上げます。

果と症候との対比をMRI拡散強調画像を用いて検討したものです。従来のMRIで検出できなかった梗塞巣も拡散強調画像では検出可能となり、新しい病巣と症候の対応も報告することができました。本邦を含め脳卒中研究は今や大規模臨床研究が盛んで今回のような研究は学会会場に行く回数派ですが、古いように思われる臨床症候学も日常臨床では非常に重要と考えています。その他、日常臨床では脳梗塞関連を中心に日

学術賞

千葉大学医学部附属病院放射線部

山本正二(平4)



2005年以来千葉大学附属病院で行ってきたAiセンターでの活動が評価されたの受賞と思います。この場をお借りして関係者各位にお礼を申し上げます。実は私が受賞する5年前に現在ベストセラー作家として活躍なさっている海堂先生(当時は別名です)がす

常臨床で重要な症例については積極的に症例報告をするようにしてきました。大きい仕事ではありませんが、一般病院において一臨床医として一つ一つ小さい仕事を精進してきた結果の今回の受賞なのかと思う次第です。今回の受賞を励みとしまして皆様のご指導・鞭撻を更に頂きながら、今後もリサーチマイインドを持って毎日の医療に従事させて頂きたいと存じます。このたびは誠にありがとうございました。

明の手段の一つである解剖実施率が2%台になってしまった現在、解剖が行われない症例に対しても、より正確な情報を元に死亡診断書や死体検案書が作成できるようにAiに関する情報を集め、データベース化する事を一つの目的としています。また、千葉大での経験を中心に、医療不信などの問題を解決するため、各病院で実施されたAiの読影も行ってまいります。これには、医療事故などの症例も含まれる事が想定され、各病院からの問い合わせに對してある程度即時性を持ち回答を行わなくてはならないため、インターネットでの受付を開始し、至急の場合、24時間以内に読影結果を通知できる体制をとっています。読影に関しては、放射線専門医の資格をもったAiの専門家をそろえ、同門である千葉県がんセンターの高野英行先生(昭61)にも参加して頂いております。また、遺族の側からすると、治療を受けたその病院以外の第三者

千葉大学校友会總會のお知らせ

日時：平成22年11月27日(土) 14:00~

場所：千葉大学けやき会館大ホール (千葉大学西千葉キャンパス)

講演会 15:00~

在学生によるアトラクション 16:20~

懇親会 16:45~

機関の専門家の意見が聞きたいという要望もあり、これに出来るべくAi鑑定という形で読影依頼を受け始めました。これは個人で鑑定を行う今までの方法とは異なり、Ai情報センターが鑑定業務を請け負い、複数メンバーによる読影を行い、鑑定書を作成するという日本初のシステムです。今後社会システムの一つとしてAiが認知されるように頑張っていきたいと思っております。同門の皆様今後ともご助力の程よろしくお願ひいたします。

Ai情報センターについては、
HP: <http://www.autopsymaging.com/>
もし参照ください。

各地のほな会 だより

栃木県のはな会 開催報告

平成22年1月24日(日)に栃木県のはな会が全国のはな会・伊藤晴夫会長、静岡県のはな会・佐藤通会長、東京都のはな会・高穂会長、深谷日赤・諏訪敏一病院長をお迎えして宇都宮市ホテル・ニューイタヤにて栃木県のはな会・坂田早苗会長のもと盛大に開催された。

そして特別講演として東京女子医科大学・八千代医療センター橋本尚武教授(昭55)による「糖尿病治療薬の最近の話題」と題した研修も行われた。

PM4時45分より懇親会が開催され、お互いの近況報告や「るのほな会活性化の



再検討」とか「今後の医療情勢」などについての意見交換がもたれ、PM6時ごろ、お互いの活躍と来年度の再開を約して散会をした。

出席者右から

- 前列…諏訪敏一(昭43)、
 高穂正信(昭57)、岡龍弘(昭55)、十川康弘(昭55)、
 廣田勝太郎(昭55)、一戸彰(昭45)、戸邊豊(昭44)、
 本谷武(昭44)、岩本(昭44)、
 大宮安紀彦(昭53)、
 星野聡(昭43)、
 後列…福田武準(昭42)、
 高原正信(昭57)、岡龍弘(昭55)、
 十川康弘(昭55)、
 廣田勝太郎(昭55)、
 一戸彰(昭45)、
 戸邊豊(昭44)、
 本谷武(昭44)、
 大宮安紀彦(昭53)

江戸川のはな会

5月15日(土)、「平成22年度江戸川のはな会総会」が日本橋のロイヤルパークで開かれ、当日は天候にも恵まれて10名出席の盛会となりました。

最初の講演は、今年4月1日に就任したばかりの東邦大学佐倉病院泌尿器科教授、鈴木啓悦先生(平2)による「前立腺癌の診断と治療・地域連携のあり方をふくめて」の講演をいただきました。

前立腺癌の第一人者である先生の話は、日常診療のみならず自らの健康にも関わるお話しでした。

次に、千葉大学大学院医学研究環境影響生化学教室教授、鈴木信夫先生(昭47)より「時代変化に対応する同窓会の活性化、近代化、そして未来化」の講演をいただきました。

IT時代に対応した同窓会のこれからについて深く考えさせられました。

最後に、千葉大学教育学部教授、杉田克生先生(昭54)より「学校保健に関する話題」の講演をいただきました。

最近話題の小児の自閉症についてのお話でした。日々の治療ではとどまらな

うテーマであり勉強になりました。

総会は、岩倉弘毅先生(昭37)の挨拶に始まり、平成21年度の収支会計報告と円滑に進行し、無事終了しました。

その後、懇親会へと移り、歓談を深めました。

参加者は、神山一郎(昭24)、一志典夫(昭25)、伊谷昭幸(昭30)、藤山嘉信(昭30)、岩倉弘毅(昭37)、森順子(昭51)、森照男(昭53)、岡本和久(平2)、竹内孝治(平3)、山田泰司(平7)

(岡本和久)

松戸のはな会

平成21年度松戸のはな会総会は千葉大学大学院整形外科学教授・高橋和久先生(昭51)をお招きし、「腰痛のプライマリケア」と題した御講演をいただきました。

地域の診療所では標榜科を問わず「腰痛」を訴える患者さんが多いことや、中高年の会員の多くに腰痛の経験があることなどのためか、自身の症状に即した質問も出され活発で楽しい講演会でした。

総会後、松戸市立病院整形外科の医師

を中心とした同門の二次会が夜遅くまで続いたとのことでした。

なお、松戸市は高橋教授のご出身地ということもあり感慨深い様子でした。

さて、松戸市は千葉県の最西端に位置し千葉市との直通の交通手段がないこともあり、思いのほか遠方にあるような印象をもたれることがあります。

この機会に「松戸のはな会」について簡単なご紹介を致します。

松戸のはな会の芽生えは数十年前にさかのぼります。昭和20年代後半〜30年代にかけて国保松戸市立病院が「松戸市国民健康保険病院」と呼ばれていた頃は、病院勤務医の間で仲間うちの親睦会が開かれていたようです。



昭和42年9月に現在の上本郷地区に移転し「国保松戸市立病院」と改称した頃から「松戸るのほな会」を立ち上げる動きがあり、昭和46年11月高山直清会長(故人・昭15)のもとに会が再開され、昭和50年2月には会則と名簿を作成するに至りました。

昭和51年9月、守岡稔会長(昭24)のもと、松戸るのほな会(通称)の正式名称を「千葉大学るのほな同窓会松戸支部」とし、会長宅に「事務所」を置く・毎年1回通常総会を開く・年会費を徴収することなどを取り決めました。

平成11年11月、武井孝達会長(昭41)の発案により「松戸るのほな会報」を創刊し、以来年1回の発行を続けております。

「松戸るのほな会」では、会長を医師会会員から副会長を松戸市立病院勤務医と医師会会員から選出し、その他に数名の幹事で役員会を構成しています。平成21年度までの4年間は北野邦孝会長(昭46)・松島保久副会長(昭47)・小野和則副会長(昭51)・石島秀紀幹事(昭60)・飯田哲幹事(昭62)、平成22年度からは小野和則会長・石島秀紀副会長・飯田哲副会長、青木

俊郎幹事(昭63)・武田直己幹事(平2)の体制です。

出席者右から

前列・長田浩(昭20)、篠原寛休(昭35)、高橋和久教授(昭51)、藤塚光慶(昭43)、武井孝達(昭41)、北野邦孝(昭46)
後列・澁谷潔(昭61)、品

平成22年6月11日、新宿野村ビルにて東京女子医科大学るのほな会を開催しました。東京女子医科大学に



田良之(昭58)、安宅洋美(平元)、丹野隆明(昭57)、飯田哲(昭62)、岩井直路(昭57)、武田直己(平2)、大須英夫(昭51)、江原正明(昭49)、金坂俊秀(平11)、松島保久(昭47)、石島秀紀(昭60)、渡辺寛(昭41)、河本泰成(平2)、鈴木千穂(平5)、牧聡(平18)、小林伸行(昭41)、内藤敬一(昭41)、小野元子(昭51)、宮下智大(平11)、青木俊郎(昭63)、小野和則(昭51)、上野泉(昭53)、長門義宣(昭58) 撮影時不在・旭俊臣(昭48) (小野和則)

ぶりの会合で、仕事の都合などから全員集合というわけにはいきませんでした。今回は、今回は八千代医療センターの仲間を交えての楽しい会となりました。若い先生方も増え心強い限りです。伊藤達雄八千代医療センター名誉院長(昭42)の乾杯にはじまり、るのほな昔話、現状報告、将来の抱負など語るうちにあっという間に時間が過ぎてしまいました。とくに八千代医療センターは寺井院長(小児科、昭53)のもと、千葉大学の先生方が多く勤めており多大な貢献をしております。本院では昨年の遠藤弘良先生(昭55)とこの5月には松井英雄先生(昭55)が主任教授に就任され活気づいてきました。

出席者右から
前列・加藤義治(昭53)、伊藤達雄(昭42)、野村馨

(昭48)、吉原俊雄(昭53) 二列目・小田秀明(昭57)、松井英雄(昭55)、遠藤弘良(昭55) 三列目・関根康雄(昭62)、橋本尚武(昭55)、杉原茂考(昭55) 四列目・廣島健三(昭54)、飯塚慶(平20)、村田泰章(平5) 五列目・林和彦(昭61)、木村翔(平20)、米田千裕(平17)、清田毅(平13) 後列・山口淳一(平5)、太田岳洋(昭61)、塚原高弘(平9) 各先生です。

酔いもほどよくまわった頃、今後は皆で情報を共有しつつ、千葉大学医学部との連携も大切にしながら将来に向けてがんばっていくことを再確認して閉会となりました。

(吉原俊雄)

聖路加病院
るのほな会

平素より大変お世話になっております。平成21年卒佐藤真洋と申します。

聖路加るのほな会は松道正樹先生(昭62)、野村征太郎先生(平17)が聖路加国際病院で勤務している医師やそのOBの医師の繋がりを深める目的で5年前に



発足し、年1から2回程度開催し、今回7回目を迎えることとなりました。現在では日産玉川病院の先生方にもご参加いただくようになり、ますます繋がりがも強くなってきております。千葉大学というひとつの大きな拠り所を大切にしてお互いに活躍している先生方が、一同に会してみな心を開いて語り合うことにより、ひとりひとりの先生方の大きな活力となっており、私自身としても、千

葉大学という繋がりの強さ、そしてそれを大切にしながら頑張っていくという希望を持つことができました。聖路加国際病院は、キリスト教精神による患者様への愛情を根幹とした生きた有機体としての医療の提供を主眼に置いております。また臨床研修制度の草分け的存在でもあり、非常に充実した臨床研修も提供しております。ここ数年千葉大学から初期研修医が毎年のように入っており、千

葉大学としての繋がりがこれまで以上に強くなっていることを嬉しく思っています。これからも優秀な千葉大学出身の皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。今後さらなる聖路加の は な 会 の 発展のために尽力したいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

(佐藤真洋)

君津木更津
の は な 会
総 会 報 告

平成22年6月4日木更津市の東京ベイホテルで地区同窓会の年次総会が開催された。当地区は11名の会員数を数えるが、今回は32名の出席をみた。

前会長の田中弘一先生(昭42)から挨拶があり、千葉県の同窓会会長に当会員である三枝一雄先生(昭32)が選出された事が報告された。続いて事業報告、会計報告、会員の動向報告がなされた。その後新執行部の改選があり、松清央先生(昭43)が新会長に選出された。

講演会には細胞治療学の横手幸太郎教授(昭63)においていただき、「エイジングに配慮した医療のあり方を考える」との御講演を

頂いた。急速な高齢化に伴う問題点、健康長寿を目指す老年医学の必要性について、さすがマスコミにも登場する事の多い教授で弁舌鋭くわかりやすくご講演いただき、興味を持って拝聴した。また千葉大学の現況にも触れて頂き、再開発計画ラッシュの亥鼻のエネルギーを頼もしく感じるとともに、青春を過ごした思い出の場所が変貌する事に寂しさも覚えた。

懇親会は、会員以外の研修医や若い医師もたくさん参加して頂き、当地区の長老会員の葉丸比呂志先生(昭16)の大変饗饌たる乾杯で和やかに行われた。

出席者右から

- 前列・鈴木紀彰(昭50)、福山悦男(昭36)、三枝一雄(昭32)、葉丸比呂志(昭16)、田中弘一(昭42)、横手幸太郎(昭63)、唐木清一(昭28)、神田勝夫(昭22)、片海七郎(東邦大・昭40)、松清央(昭43)、田中寿一(昭43)
- 二列目・青柳博(昭49)、土屋恵美(岐阜大・平20)、岡田玲緒奈(平22)、早坂章(昭57)、李元浩(昭53)、佐藤行一郎(信州大・昭42)、鮎沢溶一(北里大・平元)、古閑啓二郎(昭54)、



- 土屋俊一(金沢大・昭51)、遠藤博久(昭61)、山本健介(昭44)
- 三列目・菊池賢(平22)、鈴木崇之(平18)、松井曉子(埼玉大・平20)、石橋亮一(平19)、磯部勝見(横市大・昭43)、北村伸哉(平元)、三枝奈芳紀(信州大・昭57)、清水弘則(平4)、渡部良夫(昭63)、香川悠(平22)、川口瑠以(平22)
- 後列・竹下健一(金沢大・平22)、中村晋(山形大・平3)、松村琢磨(平21)、橋田知明(平18)、河木潤(島根大・平3)、永寫薫(昭56)、海保隆(昭57)、岡陽一(昭56)、山口敏広(北里大・昭54)、竹内修(東海大・昭61)、新村兼康(金沢大・平4)

安房の は な 会
総 会

平成22年安房の は な 会 は、救急医学 織田成人教授(昭53)をお迎えして、6月25日館山市夕日海岸ホテルで開催された。

総会後の織田教授の特別講演は、「千葉大学救急部の現状と将来展望」と題し、救急医療にも日進月歩の医学の進歩のある事が紹介された。

懇親会は、水谷正彦先生(昭52)の安房地域医療センター(旧安房医師会病院)院長就任祝賀も兼ねて行われた。

今回の出席者15名のうち旧安房医師会病院出身者は7名で、辻博勝、天野晋両氏は昨年館山市内で開業、相正人氏は鴨川市東条病院に就職している。又、2代目会員は、関谷信平(関谷正一先生長男)、伊賀寧(伊賀多朗先生長男)両氏が出席、鋸南町にあった勝山寮の寮委員が毎年夏にお世話になった武内病院武内重先生の孫になる武内重樹氏も出席している。

当るの は な 同窓会報は、昭和34年3月1日第1号が小生の同級生達(黒田健昭・下鳥隆生・末吉貫爾・松本生)が中心となって発刊されたが、その第2号から第14号迄3年間で、安房の は な 会 からの投稿は5回に及び、高梨清先生(明36)、橋本鐘爾先生(大1)、関谷正一先生(大13)、川名正義先生(昭5)が当会の模様を報告している。それによると、当時安房医師会々員140名のうち、の は な 会 所属会員は40名を数え、当時千葉県医師会長川名正義先生をはじめ安房医師会中核を占めていた。

昭和50年前後になると、安房の は な 会 総会の開催が不定期になりつつあった為、柴田耕三(専24)、小谷庸(専24)両先生の尽力で、昭和54年から毎年開催されるようになった。昭和50年代は20数名の出席者があったが、昭和60年頃より出席者の低落傾向が続いた。平成12年安房医師会病院のリニューアルオープンに伴い、大学から多くの若手医師が常勤として派遣された事により、安房の は な 会 総会への出席者が20名を超えるようになったが、最近の数年は15名前後となっている。

出席者右から

- 前列・原久彌(昭34)、貴家昭而(昭30)、青木謹(昭36)、織田成人教授(昭53)、本位田泰介(昭28)、西川義明(昭34)、関谷信平(昭38)
- 後列・辻博勝(平2)、武

本紙前号で、亀田メディカルセンター福武敏夫先生(昭56)の記事中、本学出身者が10数名在籍しているとの事なので、今後は鴨川市から大挙して出席して下さるよう期待して、嘗てのような賑やかな安房の は な 会 を 実現 したい と考えて いる。



内重樹(北里大・昭53)、
相正人(島根大・平9)、
水谷正彦(昭52)、伊賀寧
(聖マリ大・平2)、天野晋
(平3)、渡辺啓治(昭61)、
本多満(昭37)、林宗寛(昭
60)
(青木 謹)

東京のるのほな
耳鼻科医会

平成22年7月15日に銀座2丁目のホテルモントレにて第10回東京のるのほな耳鼻科医会が開催されました。今回は勉強会としての講演は「花粉症の今年の動向」として自由が丘で開業され、本会の幹事もされている笠井創先生(昭52)が解説され、次いで三井記念病院部長の奥野妙子先生(昭52)から低侵襲の耳科手術と先生のライフワークでもある内耳の実験成果についてわかりやすい講演をいただいた。奥野先生は千葉大卒業後東大の耳鼻科で研鑽され、講師を務められた後に三井記念病院において部長として若手医師の教育と地域医療に貢献されています。本年は女子医大医局からも医師派遣を受け入れていただきました。講演会の後には例年通り笠井幹事と私の司会で懇親会が開かれ、神田敬先生(昭35)挨拶、乾杯は森豊先生に音頭をとっていただいた。またこのたび千葉県耳鼻咽喉科医会長に就任された千葉山王病院部長の永田博史先生(昭57)に今後の抱負も初めて出席された島田哲男



(昭41)、小関洋男(昭53)、
大多和優里(平19)、杉崎
洋紀(平21)各先生からも
あらためて近況報告をいた
された堀内正敏先生(昭
45)の中締めのご挨拶の
後、有志で2次会、3次会
へと流れさらに楽しい会と
なった。出席者は卒年順に
神田敬(昭35)、森豊(昭
37)、宮下久夫(昭38)、島

～るのほな美術展案内～

2010年 第35回

るのほな美術展

—千葉大学医学部OBによる美術展—

10月4日(月)～10日(日)

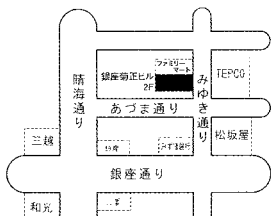
AM11:00～PM6:30 最終日4時

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。
例年通り右記の会場で、第35回展を開催いたします。
ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

懇親会 10月9日(土)午後2時会場にて

銀座 ひまわり
ギャラリー向日葵

〒104-0061
東京都中央区銀座5-9-13
銀座菊正ビル2F
TEL 会場 03-3572-0830
事務所 03-3573-1680



地下鉄 銀座駅 A3出口 徒歩2分

田哲男(昭41)、林崎勝武
(昭44)、堀内正敏(昭45)、
結束温(昭46)、登坂薫(昭
50)、夜久有滋(昭50)、笠
井創(昭52)、奥野妙子(昭
52)、小関洋男(昭53)、増
田卓(昭53)、吉原俊雄
(昭53)、和田二郎(昭53)、
諸田英夫(昭55)、永田博
史(昭57)、三浦巧(昭57)、
大谷地直樹(昭58)、日野
剛(昭58)、加藤雄一(昭
58)、中村宏(昭59)、三橋
敏雄(昭59)、持田晃(昭

59)、伊藤宏文(昭61)、本
杉英昭(昭62)、晝間清(平
元)、柴啓介(平2)、吉田
耕(平3)、岩本容武(平
5)、小林伸宏(平5)、大
谷聡(平7)、留守卓也(平
7)、大多和優里(平19)、
新井智之(平19)、杉崎洋
紀(平21)、吉原晋太郎(平
21)が参加し益々若返った
会となりました。来年はさ
らに充実した会となるよう
企画していくこととした。
(吉原俊雄)

クラス会

卒業六十周年
クラス会

(昭24)

平成21年11月22日、向島一の料亭「桜茶や」で開催した。卒業したのは、135名だったはずだが、連絡の付いたのは、52名で、83名の方は亡くなられたようで、寂しい限りです。

40年ほど前は、毎年、向島の料亭「京家」で芸者を揚げて騒いだものでした

(長澤仁二)



爾久会

(昭29)

年1回開催している同級会は、快晴の平成22年6月5日、飯田橋のホテル・メトロポリタン・エドモントにおいて開催しました。

80名のクラスでありましたが、27名の級友と、ご夫人5名という大盛況で、予定していた方々のほかに、多忙にかかわらず特に都合をつけてこられた方が加わり、料理を追加しました。まず去る4月に逝去され



た樋口道雄君のご冥福を祈り黙祷をしてから、朝岡威親君の乾杯で、会がはじまりました。

雑談と料理、酒ののち、それぞれの近況報告になりました。

羽生富士夫君は闘病中入院治療をつづけておられますが、病室よりご夫人とともに参加され、元気なところを披露されました。

患者のみでなく、自分も治すという迫力に、皆からエールを贈られました。

締めくくりは最後の旧姓高校の誇りである寮歌が松本、水戸、八高とつづき、来年度は6月4日(土)同ホテルで実施することを約束し、窪田叔子君の一本締めで終了しました。

出席者右から
前列・福島通夫、窪田叔子、柴田千葉男、島崎淳、羽生富士夫、野口晃平、鈴木日出和、東振栄
中列・西三郎、若菜夫人、有馬道雄、中野夫人、中山宗春、柴田夫人、根本幸一、中山夫人、佐野迪雄、羽生夫人、実川浩、佐藤忠夫、渡辺四郎、大津正典
後列・長谷川透、荒木晃、大藤正雄、小出紀、奥平昌彦、中野練一、和田房治、陶易王、朝岡威親、飯田宏美
(島崎 淳)

五五会

(昭30)

羽生富士夫先生は8月17日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。
(編)

平成22年6月20日、東京お茶の水ガーデンパレスで、今年の同期会が行われた。昨年は南園義一君のお世話により、山口で2泊3日の会であったが、今年は東京で簡略にやる計画であった。当日家族を含め30



名が出席された。平均80才となり、開業していたものは、その移譲や撤収に苦労したり、細々と診療を続けたり、引退して余生を楽しまむ等、老年の生き甲斐が語られた。各自の発言も、長時間となり予定内に終わりに難かった。残念ながら、岩塚迪夫、渡辺英詩、斎藤仁隆、土橋弘道の4氏が他界され、100名卒業のクラス会員は遂に61名となった。やや前途不安な気持ちとなったが元気で来年の再会を誓った。

写真(加濃正明君撮影)

右から

前列・滝口光雄、伊藤敏夫、永野俊雄、小泉準三、上牧順三、鈴木裕太郎、指田和明
 二列・村瀬真弓、横田夫人、吉原一郎、富田裕、志村昭光、伊谷昭幸、高橋康、村瀬靖、浅見敦、藤山嘉信、後藤澄夫、秋元夫人、中島夫人
 後列・山本輝通、中野政雄、横田俊二、中島和彦、秋元駿一、岩井忠志、小林富久、加濃正明
 新井多喜男、石神一良両君は写っていない。

(永野俊雄)

ちよに会

(昭42)

平成22年6月6日に昭和42年千葉大学医学部卒業の同窓会(ちよに会)を京成ミラマールで開催しました。昨年の同窓会で「そろそろ年なので、毎年6月の第1日曜日に集まろう」と決めたので、今年は6月6日の日曜日の開催となりました。現在、既に物故者となっている人が10名おり、結局、当日は例年通りドタキャンが2名あり、31名の出席でした。去年より5名多くの出席者でした。今年も幸いにして黙祷をする対象者が無く、皆で無事を祝いました。集合写真を撮った後に、2期8年真岡市長を務め、昨年政界から引退し、今は医者として頑張っている福田武隼君の発声で乾杯し、各々に現況報告をして貰いました。何人かはもう現役引退で悠々自適の生活をしていましたが、ほとんどのクラスメートは、そろそろ引退したいが、まだもう少し働くというような感じでした。皆さんそれぞれ楽しいスピーチをしてくれましたが、金沢医大小児科教授を10年ぐらい勤めて今は千葉に戻ってきている高橋弘昭君は長くアメリカ

カで医者をしており、最後はジョンズ・ホプキンス大学で準教授をしていただけあり、欧米文学を原語で読んでいるが、これからはもっとたくさん読むという事と、バイオリンを習っていて演奏会にも出場したという話や谷口克君の得意

なZn-2細胞でこれからの癌治療法が変わるとい話などは皆から拍手を浴びていました。その他に健康増進に気を付けてスポーツジムに通って若いおねーちゃんにエアロビを指導してもらっていると、家庭菜園を



かからあり、最後に私(守屋)が横審ウラ話として「どうして朝青龍は引退したか」を話して個々の現状報告は終わりになりました。次回は1年後の平成23年6月5日(日)に開催すると決めましたが、ここでクラスメートの中で1番元気な谷口克君が来年は早朝ゴルフをしてから集まろうとの提案があり、そちらは伊佐治尚文君が幹事となり希望者は参加するという事と、もう毎年話す事も無い人が増えてくるので、来年からは話したい人だけ話をするという事を決め、来年も黙祷の無いように元気でいようと誓い合って、散会となりました。

今年度のクラス会は今まで出席しなかった人も何人か来て、大変楽しい会であったと自分では感じました。多分、年のせいでお互い元気で会えて良かったなという気持ちで楽しかったです。この会だと思えました。

出席者右から
 前列・福田武隼、門馬公経、森田喜崇子、関三千代、谷口克、伊佐治尚文、石井従道、守屋秀繁
 二列目・鍋島和夫、小林紘一、更科廣實、中村謙介、大沼直躬、平賀一陽、小林

茂雄、三列目・伊藤達雄、小柳朝明、森田清、太田東吾、本田陸人、藤澤武彦、高崎健、佐野元昭、後列・河野泉、高部吉庸、関隆郎、高橋弘昭、宮本忠昭、吉野紘正、高橋稔、内藤準哉

(守屋秀繁)

昭和51年卒

佐藤兼重教授就任祝賀会

45年前の1964年10月10日は澄み渡った快晴。その真つ青なキャンパスに航空自衛隊ブルーインパルスが五輪の輪を描き、アジアで初めての東京オリンピックが開会されたことを記憶されている方々は少なくなりつつあります。その日と同様に澄み渡った青空の昨年10月11日(1日違い)はありませんが、「51会」主催による佐藤(旧姓山田)兼重先生の千葉大学形成外科学教授就任祝賀会が催されました。会場である京成ホテルミラマールスカイバンケットからの千葉市の眺めは素晴らしく、青空とともに彼の教室の今後の発展を思わせるものでした。

連休の中にも拘らず、31名が出席し、菅井桂雄平山病院院長代行の司会

で、高橋和久千葉大学整形外科学教授の挨拶、佐藤教授と学生時代から親交の篤かった我那覇仁沖縄県立南部医療センター小児医療センター1長の乾杯の音頭で会は始まり、その後、出席された方々から、お祝いの言葉・近況報告がなされた。彼の姓は複数の同級生がいたため、学生時代の呼称である「兼重」で呼び合っている、その中で、学生時代の彼は、長髪に細いカラージーンズにカラフルな服装で、一見硬派には程遠いと同級生の多くは思っていたこと、しかし、実は、クリストファー外科学の形成外科の項を読み、その治療法の素晴らしさに感動し、将来形成外科医をすべく目指し、形成外科のある施設見学をしていただくこと、遊びの誘いもほとんどに帰宅し、家業の手伝いをしつつ語学教室に通っていたこと等々将来をしっかりと見据えていた学生時代の一端が紹介され、同級生ならではの和気藹々とした雰囲気では進みました。最後に佐藤兼重教授から挨拶があり、教室の今後についての紹介・6年後には国際形成外科学会を日本ではじめて開催する予定であること等が報告された。卒後35年となる2年

後の「51会」での再開を約束し、寺野隆千葉市立青葉病院診療局長の締めで閉会した。



出席者右から

前列…姫野雄司、我那覇仁、林春幸、高橋和久、佐藤兼重、山崎一馬、菅井桂

雄、秋田徹、西本良博

二列目…武石恭一、斎藤典男、小野純一、縄田泰史、柳沢孝夫、由佐俊和、寺野隆、宇津木誠、内藤仁、山本俊樹、川村健二、黒崎知道、平井康夫
後列…塚本剛、小松健祐、永楽清人、篠塚正彦、菊池俊之、坂本薫、門山周文、大山欣昭、宮本茂樹、児島孝行
(黒崎知道)

五十五年卒
クラス会 (八〇会)
(昭55)

平成22年7月3日(土)にホテルニューオータニ幕張において、卒業30周年のクラス会を開催しました。卒業15年、20年にクラス会を開いてから10年ぶりの再会でしたが、沖縄から潮平君、北九州から金澤君も駆けつけてくれて、60名が集い楽しくまた懐かしい時間を過ごしました。柿沼君の司会により会が進行し、日本医師会常任理事の石川君の音頭で乾杯後、しばらく腹を満たしてから一分間スピーチが始まりました。とても一分間には想いを凝縮できない者が続出し、最後は駆け足になって全員が何とかマイクを握ることができたものの、あつという間

に予定の二時間が過ぎてしまい、古賀(島田)さんの締めで一次会は終了。皆な50も半ばを過ぎ、すでに5名の仲間が他界し、「心臓にステントを入れた」等のスピーチが数名から聞かれるなど、健康の有難さを嫌でも認識せざるを得ない歳になったということなのでしょう。

私達の学年は医学部定員が100名から120名に増えたときの入学ですが、卒業30年を経て現在千葉大学には誰一人も残っていないという珍しい? 学年です。それでも5月に東京女子医大産婦人科教授に就任した松井君を初め10名が大学教授の職にあり、勤務医71名(うち病院長10名)、開業医30名など、誰もが責任の重いまさに働き盛り。欠席者のハガキからも「忙しくて学会にもいけない」「院長をしているが医師不足で病院を離れられない」など、特に地方の勤務医から悲鳴が聞かれました。
二次会には40名、三次会にも20名以上が参加して深夜まで騒ぎ、遅くとも5年後の再会を約束して散会となりました。なお同級会の名称を「八〇会(はちまるかい)」とすることが決まりました。

参加者右から

前列…諸田英夫、松山泰久、羅智靖、古賀(島田)和子、亀井(轟)太美子、水見(原)京子、吉永勝訓、柿沼宏明、石井晶子、栗林伸一、高橋淳、加瀬川均、二列目…藤田明、和田清深澤一雄、久木田親重、柴橋博之、松井英雄、佐藤慎一、増田益功、栗原和男、関紳一、稲垣雅之
三列目…湯口恭利、杉原茂孝、神崎哲人、大崎達也、潮平芳樹、真田孝裕、越川尚男、石橋巖、宇田川郁夫、高橋一昭、
四列目…野田和男、中島浩志、土屋恵司、金澤保、中村博敏、齋藤博明、榊原誠、中田好則、寺林秀隆
五列目…松浦誠一、岡野達弥、雄賀多聡、水見寿治、岡龍弘、植松武史、十川康弘、室谷典義
後列…栗野友太、橋本尚武、石川広己

ほかに、有我隆光、伊藤千秋、伊藤順一郎、砂田壮一、丹羽(袖山)淳子、出沢明、長谷川浩。以上60名。
(吉永勝訓)

昭和61年卒業
同窓会
(昭61)

入学して30年、卒業して25年目の平成22年7月17日に、海浜幕張にて昭和61年卒の同窓会を行いました。



卒業10年の平成8年以來の開催ということもあり、卒業生24名(物故者3名)中ほぼ半数の59名が出席しました。遠くベルギーからルブラン女史も駆けつけてくれ、互いの健在を喜び合いました。在学中に他界された高梨亘氏を含め高岸正光、西村(佐藤)美樹・牧野康彦氏に黙祷後歓談に入り、近況報告などを経て午後九時の閉会後も皆会場を立ち去りがたく、近隣に分散しての二次会は深夜にまで及びました。次回は卒業三十年となる六年後を予定しています。



光子、林和彦、林偉明、藤野道夫、古谷雄三、松永保三、浦信之、村上康二、山本司、結城崇夫、長門(与那覇)文子、ルブランカトリース、脇坂啓介、渡辺啓治、渡辺栄、渡辺隆(括弧内旧姓) (林 偉明)

中山恒明先生

生誕百周年記念式典開催

奥井勝二(昭28)

中山恒明先生は明治43年9月25日(1910年)のお生まれで、今年が生誕百年にあたり、中山家、東京女子医大消化器病センターが主催で、去る6月20日記念式典が行われた。午前11時千葉市宮城木霊園3区の中山家墓所に大勢集まり記念碑の除幕式が行われた。碑文は羽生富士夫名誉教授(昭29)の書で記念碑の前面には先生の履歴、輝かしい業績、論語の典故による『讚仰中山恒明』が記載されている。(写真)裏面には中山先生の遺訓の『人生は経験である中山恒明』『先ず始めることから始めたら辞

生誕百周年記念祭に出席して

清陽 高穂(昭45)

西暦2010年の今年是我らが恩師、故中山恒明教授の生誕100周年に当たる。先生は20世紀初頭1910年(明治43年)9月25日、東京・神田のお生まれで、健康に留意され94歳の長命を保たれた。世界の外科医として人生の達人として万人の尊敬と崇拝を集めておられる。

科)や東京女子医大・消化器病センターの数多くの門下生たち、その他関係者が参集した。墓碑傍らに建立された大きな黒御影の石碑には、先生の世紀の外科医賞やベルツ賞受賞歴、勲一等叙勲などの輝かしい経歴と、外科学会での功績への賛辞文が刻まれ、裏面には中山先生の「人生は経験である」の言葉を筆頭に先生のモットーが並べられている。

その後、料亭「花長」に於いて中山先生のお元気な頃の写真を前にして懇親会が開かれた。中山先生の若い頃の思い出話が沢山披露された。なお、先生は平成17年6月20日、94歳で亡くなられた。

去る6月20日、梅雨時の曇り空にも薄日が射す中で、千葉市・桜木霊園にある中山家墓地にて、中山恒明先生・生誕百周年記念祭ならびに顕彰碑除幕式が挙行された。令嬢・川名教子様はじめご親族、千葉大学医学部・中山外科教室(旧第二外

の挨拶が続き、昭和26年卒業の加瀬貞治先生から昭和58年卒の松原久裕千葉大学(旧第二)外科教授に至る十名余りが、中山先生への師恩の情やエピソードなど思いの丈を述べて共感を誘い、また榎原宣(順天堂大)、鈴木博孝(女子医大)名誉教授などからの数十年に及ぶ薫陶や叱咤激励のお話は在りし日の中山教室の様を彷彿とさせ、同門の誼を感じさせる素晴らしい記念会となった。遠くは山口から長崎進先生(昭27)、静岡から佐藤通先生(昭35)らが参加され、また故浜野恭一夫人と亀岡信吾女子医大第二外科教授からは浜野先生に代わり感謝の言葉が述べられた。

終戦後日本が敗戦国として失意と混乱にあつた時期、独創的手術法や外科器械の工夫により不治の病「食道がん」の患者さんを数多く救って万国からの評価を得られ、世界各国から求められて講演と手術実演とを行い、千葉大学医学部外科の名を高らした。

中山教室の日々の修練は、午前7時半の回診に始まり午後9時過ぎまで14時間労働で、現行の研修医教育などとは隔世の感もあるが、全国から集まる食道が



▲晩年の中山恒明先生
90歳の頃

中山家墓所 記念碑
右：羽生富士夫名誉教授
左：川名教子様



んや肝臓がん、すい臓がん
患者の期待に応えんと、教
授から新卒医師まで一丸と
なって努力することにあつ
た。その教室を主宰されて
残された中山教室の数々の
輝かしい業績は永劫に不朽
のものとして確信している。

百年祭に出席し、常日頃
口にされていた「世界がス
タンダード、患者の自然治
癒力を引き出すのが名医」
の中山語録を思い浮かべ、
改めて中山教授のご薫陶・
ご恩に感謝するものであ
る。

千葉大学医学部スキー部 創部50周年記念祝賀会開催

千葉大学医学部スキー部
創部50周年記念祝賀会は平
成21年10月31日(土) 17:
00から20:00まで京成ホテ
ルミラマールにて開催され
た。本間三郎初代部長(昭
21)ご夫妻、青木謹元東医
体評議員(昭36)、栗山喬
之元部長(昭43)、小原務
現コーチの5名の来賓、60
名のOB・OGそして現役
部員16名が集い盛大に行わ
れた。

岩倉弘毅OB・OG会長
(昭37)による開会の挨拶
に続き、本間名誉教授、栗
山名誉教授より御祝辞をい
ただいた。栗山名誉教授の
退官記念も兼ねており記念
品が岩倉先生より贈呈され
た。現部長の松原久裕(昭
59)が挨拶、御礼を述べ、
宍倉正胤先生(昭37)の乾
杯にて祝宴が開始された。
福士和夫先生(昭37)から
今回千葉大が主催するス
キー大会を公式競技となる
よう尽力して欲しいと頼ま
れた東医体評議員だった青
木先生が当時の第2回東医
体理事長(日大小島徳浩教
授)などに働きかけ、東医
体第1回冬季部門スキー大

会とした事、黒岩璋光先
生(昭37)の実家の万座黒
岩荘を拠点として開催した
事、第1回大会主管校が北
大でなく、東北大、新潟大、
群馬大でなく、何故千葉大
なんだと話題になつてい
る事など、懐かしい話が先輩
各位から披露された。また
小原コーチが就任後今日ま
でのスキー部の進歩につき
話をされた。さらに当日も
来られた岩倉、黒岩、宍倉、
福士4名の創設者が最初の
大会で大活躍した写真を青

木先生が大切に保管
されていたため、そ
の当時の写真から現
在まで50年の歴史を
振り返るスライドを
会場で上映すること
ができ、その当時の
スキーへの情熱が伝
わり大いに盛り上
がった。



松原久裕(昭59)

ような盛大なすばらしい会
となった。現役部員の清水
規宏君が作詞・作曲した千
葉大学医学部スキー部50周
年記念曲が披露され、盛會
のうちお開きとなった。有
志は魚民に準備された二次
会にて今後の発展を祈念
し、さらに杯を重ね語り
合った。



研修プログラム

検査部・遺伝子診療部における

卒業研修(臨床検査専門医・臨床遺伝専門医 コース)と千葉大学医学部附属病院 遺伝子診療部の紹介

千葉大学大学院医学研究分子病態解析学
千葉大学医学部附属病院検査部・遺伝子診療部教授

野村 文夫(昭50)

医学研究院の分子病態解析学講座(旧臨床検査医学講座)は臨床検査を特に分子レベルでとらえ、最新の「Omics」技術を駆使して新しい疾患マーカーや疾患素因を見出し、その成果を速やかに診療の現場に還元することをミッションとしています。病院では検査部・遺伝子診療部および疾患プロテオミクス研究センター(寄付研究部門)を担当しています。

検査部・遺伝子診療部では2年間の初期研修を終了した方を対象に、認定内科医をベースとして臨床検査専門医・臨床遺伝専門医の2つのsubspecialty取得に向けた卒業研修プログラムを用意しています。講座の大学院生として新しい疾患マーカーの探索とその臨床応用に関する研究などに従事しながら、病院検査

部・遺伝子診療部において二つの専門医取得に向けた研修を並行して行うことも可能です。無症状の生活習慣病の増加など疾患構造が変化すると同時に未病学や予防医学が重視される現在、臨床検査は重要性を増すと同時にますます多岐にわたっています。したがって、多くの臨床医にとって自分の専門領域以外の基本的臨床検査の最新情報を把握し続けることは簡単ではありません。そこで基本的臨床検査の意義、ピットフォールについて検査の精度管理も含めてマスターし検査室の管理運営も行える臨床検査専門医が必要となります。

なっています。有効な治療法がない遺伝性疾患の発症前診断、出生前診断・着床前診断などにおいては、これまでの医療とは異なる次元での心理社会的倫理的諸問題に直面することが少なくありません。したがって、これらの問題にチーム医療として適切に対処できる横断的診療部門が大学病院などの高度先進医療機関では不可欠とされ、2009年11月に開催された第7回全国遺伝子医療部門連絡会議の参加施設は78施設に達しています。

前後の心理的・社会的サポートなどを担当し、院内外からの受診者が着実に増え、年間の症例数は100例を超えるようになりました。以上のように当方の研修プログラムは「臨床検査専門医および臨床遺伝専門医の特性を備え、守備範囲の広い新しいスタイルの内科医を目指す方」「基礎と臨床のかけ橋となる研究を行い、その研究成果を臨床現場に還元する」ところまでやってみたい方」などに最適なプログラムと思います。

す。ご興味のある方は是非ご連絡ください
fnonmura@faculty.chiba-u.jp, <http://www.n.chiba-u.ac.jp/class/moldiag/>
また、同窓会員の先生方におかれましては遺伝や遺伝病に関して心配事や悩みの抱える方に対して当院遺伝子診療部をご紹介いただければ幸いです。受診方法などはHP (<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/GC/home%20page.htm>) に掲載されています。

小児科の研修および診療について

千葉大学大学院医学研究分子病態解析学小児病態学講師

藤井 克則(平2)

「小児は大人のミニチュアではない」とはよく言われる言葉ですが、小児科は生まれたばかりの赤ちゃんから、疾患によっては成人までの幅広い年齢層をカバーするため、その診療には多大な専門的知識を必要とします。従って小児科医として一人前になるためには、多くの経験と年月が必要とされ、長年にわたる研鑽が求められます。

「昭48」が教室を主宰されています。小児科では免疫アレルギー、内分泌、感染、神経、循環器、血液、新生児の7つの臨床専門班がありそれぞれ先進的な治療を展開しています。この中には腎臓と代謝が含まれていませんが、それぞれ国立病院機構千葉東病院、千葉県こども病院とタイアップしており医療の連続性を保っています。小児科の河野陽一教授は免疫アレルギー・膠原病が専門で小児の免疫アレルギーの第一人者で

す。来年度の日本アレルギー学会を千葉で開催されるなど世界をリードする研究も行なわれていて、医学部の研究室では日夜若い先生たちが遅くまで実験や議論を深めています。小児科では専門的研究を行う一方で、臨床面について小児科の初期研修医および後期研修医の指導も行っています。千葉大学病院の小児科病棟では5つの診療チームがあり、それぞれに指導医とシニアレジデントないし初期研修医がペアで診療にあたります。ベッド数は小児科32床、NICU12床であり、中でもNICUは平成21年7月に開設となり、大学病院のハイリスク妊娠外来から合併症を持つ多くの新生児を受け入れていて、岩倉英雄助教を中心に新生児医療に情熱を持つ人が集まるようになりました。今後は高い診療レベルを維持しながら、千葉県下の新生児医療を担う人材を養成することも大きな使命です。

小児科の後期研修(シニアレジデント)は基本的に大学研修と外病院研修からなり、ローテートにより大学病院から各病院を研修で回ることで幅広い知識を身につけます。入局後は1年間大学院研修で多くの専門的疾患を学びますが、病棟では7つの専門班が協力して治療にあたり、万遍なく専門領域を学ぶことができます。大学病院での1年間の研修の後、翌年には一般病院で common disease と救急を経験します。入局2年目に専門班を決定した後は、希望者は大学院に進学し国外留学を経験する一方、臨床現場で一般診療を継続し地域医療で小児を支える道を選ぶこともできます。

千葉大学小児科は現在医局員10名にて構成され、平成10年から河野陽一教授

「昭48」が教室を主宰されています。小児科では免疫アレルギー、内分泌、感染、神経、循環器、血液、新生児の7つの臨床専門班がありそれぞれ先進的な治療を展開しています。この中には腎臓と代謝が含まれていませんが、それぞれ国立病院機構千葉東病院、千葉県こども病院とタイアップしており医療の連続性を保っています。小児科の河野陽一教授は免疫アレルギー・膠原病が専門で小児の免疫アレルギーの第一人者で

小児科の後期研修(シニアレジデント)は基本的に大学研修と外病院研修からなり、ローテートにより大学病院から各病院を研修で回ることで幅広い知識を身につけます。入局後は1年間

間大学院研修で多くの専門的疾患を学びますが、病棟では7つの専門班が協力して治療にあたり、万遍なく専門領域を学ぶことができます。大学病院での1年間の研修の後、翌年には一般病院で common disease と救急を経験します。入局2年目に専門班を決定した後は、希望者は大学院に進学し国外留学を経験する一方、臨床現場で一般診療を継続し地域医療で小児を支える道を選ぶこともできます。



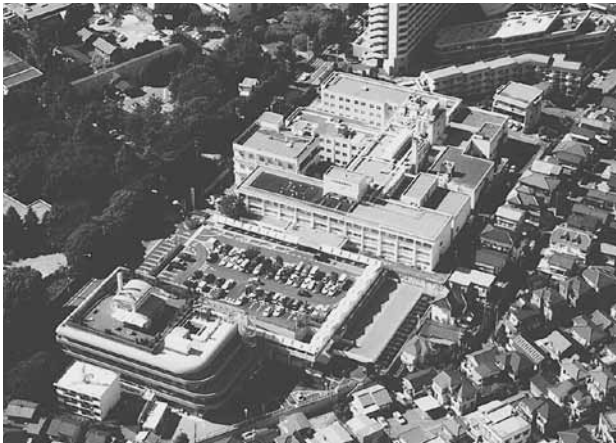
千葉社会保険病院

病院長・千葉大学医学部臨床教授
西島 浩(昭44)

当院は全国に52病院ある社会保険病院の一つで、全国社会保険協会連合会が病院の運営を統括しています。社会保険庁が所管していた病院でしたので同庁の廃止に伴い運営形態が模索されてきました。その結果、同庁傘下の厚生年金病院、船員保険病院と一緒に独立行政法人地域医療機能推進機構という機構を作る法案が前国会に提出されました。

衆議院では可決されましたが、鳩山内閣の退陣のあおりを受け参議院では廃案になってしまいました。次期臨時国会では早期にこの法案が成立することを祈っています。

当院の前身は健康保険療養所松籟荘という結核療養所



でありました。昭和46年6月に千葉社会保険病院と改称し移転新築され、結核の代わりに腎透析を診療の中心に据えました。それ以来血液透析患者は増え続け、現在270名に達しています。当然の如く透析患者様の合併症に対する手術が増加しています。主な手術は消化器癌、胆石、イレウス、整形外科疾患などであり、腎不全保存期の外科手術の紹介も大変増えてきていますが、案外術後の透析をすることなく手術が終

わっています。近年特徴的な疾患は長期腹膜透析されていた患者に発生する被嚢性腹膜硬化症で、当院で手術を開始してから今まで50例を数え紹介先病院は関東一円に及んでいます。平成16年4月に臨床研修医制度が始まって以来当院は千葉大学医学部の協力病院として参加してきました。当院の特徴は腎臓内科・透析科・健康管理センター・介護老人保健施設併設であります。腎臓内科・透析に興味のある研修医は大歓迎であります。

医師の数は循環器内科6名、消化器内科4名、腎臓内科2名、透析科3名、外科6名、整形外科1名、産婦人科2名、小児科1名、リウマチ科1名、健康管理センター15名の31名であります。腎臓内科、透析科は平成23年より1名ずつ増員になります。その他非常勤医師での診療が眼科、呼吸器内科、泌尿器科、耳鼻科、皮膚科、心臓血管外科があります。

常勤の医師名は名誉院長・透析科・嶋田俊恒(昭33)、病院長・外科・西島浩(昭44)、副院長兼老健施設長・循環器内科・嶋員文彦(昭49)、副院長・透析科・室谷典義(昭55)、

顧問・腎臓内科・家里憲二(昭45)、健康管理センター長・木村邦夫(昭45)、腎臓内科部長・長谷川茂(平4)、腎不全外科部長・正田聡(平6)、循環器内科主任部長・河野行儀(昭60)、循環器内科・診療録管理部長・飯嶋義浩(昭62)、循環器内科・研究部長・水口公彦(杏林大・昭63)、循環器診断部長・磯山邦彦(金沢大・平7)、循環器内科・馬詰智子(富山医科薬科大・平20)、消化器内科主任部長・中村広志(昭56)、消化器内科診断部長・藤田淳一(平4)、消化器内科・医学資料室長・金晋年(大阪市立大・平6)、消化器内科・瀬座文香(福島医大・平11)、外科主任部長・荻野幸伸(昭53)、外科主任部長・堀誠司(昭58)、外科・手術部長・村岡実(富山医科薬科大・昭60)、外科・放射線部長・長谷川正行(山梨医大・昭62)、外科・鈴木理之(平14)、整形外科・理学療法部長・花岡英二(日本大・平6)、産婦人科主任部長・寺田夏樹(昭51)、産婦人科部長・堀正行(東邦大・昭60)、小児科部長・野村攝子(佐賀医大・平元)、リウマチ科部長・松田幸博(順天堂大・

平元)、健康管理センター・健診主任部長・森義雄(昭50)、健康管理センター・健診部長・西荒井宏美(昭59)、健康管理センター・三橋裕美子(帝京大・平12)、健康管理センター・滝澤淳(昭45)であります。

済生会習志野病院

病院長・千葉大学医学部臨床教授
山森秀夫(昭47)

平成13年国立習志野病院の移譲を受け、新病院の建設に着手し、平成17年5月より竣工した400床の新病院で診療を開始しました。平成19年4月1日より初代真家雅彦院長(昭35)の跡を受け院長に就任いたしました。当院は人口16万人習志野市の中核病院として救急診療を含む急性期医療に力を入れております。二次救急指定病院として年間3,400台の救急車を受け入れており、ウオークインの患者を含め年間一万余名の救急患者を診ております。研修医が診るべき一般救急患者が多く、初期研修には最適の環境と思われま。平成22年度からは麻酔科の24時間バックアップ体制が整いさらに充実した救急医療ができるものと思われま。ま

千葉大学から初期臨床研修医とクリニカルクラークシップの学生の教育指導を任されていますが、職員一同大変誇りに思っています。今後とも宜しくお願います。

た平成21年よりDPCを導入し、平均在院日数は13日です。臨床研修は平成16年より千葉大学の協力病院として2名を受け入れてスタートし、翌17年より当院独自(管理型)に2名を採用し協力型2名と合わせて4名となりました。毎年管理型を2名ずつ増員し8名にする予定でしたが、厚生労働省の増員不可の方針で現在では1学年管理型4名、協力型2名で研修を行っております。臨床研修指導医は19名居り、今後も増員してゆく予定です。



常勤医師は60名で、外科9名、循環器科7名、整形外科7名、消化器科6名、泌尿器科5名、産婦人科5名、リウマチ膠原病科3名、小児科3名、血液内科2名、眼科2名、精神科2名、健診科2名、ほかは各科1名ずつとなっております。千葉大学からは副院長(消化器科)隆元英(昭50)、副院長(外科)山本和夫(昭51)、副院長(整形外科)原田義忠(昭57)、副院長(循環器科)小林智(昭58)、病理部長・菅野勇(昭47)、リウマチセンター長・縄田泰史(昭51)、小児科医長・野本泰正(昭38)、健診科・田代亜彦(昭

43)、高地刀志行(昭44)、
脳神経外科医長・西山裕孝
(昭49)、総合内科医長・唐
澤直子(昭50)、循環器科
部長・山本豊(昭60)、代
謝科部長・藤原敏正(昭
60)、外科医長・林伸一(昭
60)、循環器科医長・坂本
直哉(昭62)、整形外科医
長・鳥飼英久(昭63)、精
神科医長・安藤咲穂(平
元)、血液内科医長・趙龍
桓(平2)、消化器科医長・
阿部徑和(平3)、泌尿器
科医長・三上和男(愛媛
大、平3)、皮膚科医長・
中村康博(岡山大、平6)、
放射線科医長・池田充頭
(平7)、眼科医長・豊北祥
子(金沢大、平8)、歯科
口腔外科・神津由直(東京
歯大、平12)が各科の責任
者となっており、千葉大学
卒業生は研修医も含めて42
名在籍しています。

400床の急性期病院には最
低でも80名の医師が必要で
す。診療報酬でも認められ
たいいわゆる医療秘書の充実
による医師の雑用からの開
放、待遇の改善、そして過
重労働からの解放を実現
し、更なるスタッフの充実
に努力してゆきたいと思っ
ております。

オンライン会報に動画で
掲載予定です。

研修医だより

後期研修医より

千葉大学医学部附属病院総合診療部

鋪野 紀 好 (平20)



私は平成20年3月に千葉
大学医学部を卒業し、千葉
市立青葉病院で2年間の臨
床初期研修を修了後、平成
22年4月より千葉大学医学
部附属病院総合診療部で後
期研修を行っています。大
学病院では生坂政臣教授の
ご指導のもと、外来診断
学、臨床推論について勉強
させていただいており、充
実した毎日を過ごしており
ます。

私は大学5年生の時に総
合診療部で実習をする機会
に恵まれました。当時も現
在と同じ症例カンファレン
スが行われていました。そ
れは、今まで経験してきた
カンファレンスとは違っ
て、各症例について病歴情
報のみから前向き推論を行
い、時には主訴、性別、年
齢のみの情報で鑑別を進め
て行くこともありました。
身体診察や検査は、あく



まで補助的なものであり、
「診断には身体診察や検査
が重要」と考えていた私は
衝撃を受けました。その診
療、教育内容に学生ながら
に強い感銘を受け、「自分
はここで勉強したい！」と
強く思うようになったのが
総合診療部を志望したきっ
かけです。

総合診療部での研修は外
来診療が中心で、後期研修
医は初診患者を担当してい
ます。担当は、まず問診票
に記載された主訴・経過よ
り疾患を想起し、その後
実際に患者さんに問診を行
います。問診から得られた
病歴情報を組み合わせて、
想起した疾患の診断・除外
を行います。問診をとりな
がらの前向き推論は、学生
時代はもちろん、初期研修
医時代にも経験しませんでした
ので、その日の診療が
終了した時には心身ともに
疲労困憊していますが、同
時に、充実感も感じていま
す。

当部では複数の医師で患
者の診察をするシステムを
採用しており、最初の担当

医、すなわち後期研修医が
身体診察まで終了した時点
で、指導医に相談をしま
す。そこで担当医が考えた
診断とその鑑別疾患を挙
げ、合致する点、合致しな
い点を検討します。こうし
た過程を踏むことで、指導
医の思考プロセスに触れる
ことができ、自分の臨床推
論の正しかった点、間違っ
ていた点はもちろん、自分
の思考プロセスとは異なっ
た考え方を学習することが
できます。こうした外来教
育は、日本ではまだ実施さ
れている施設は少なく、非
常に恵まれた環境である
と思います。また、週2回行
われる症例カンファレンス
では、生坂教授の司会のも
と、その思考プロセスを直
にご指導いただける機会が
あります。和やかな雰囲気
の中で、誰しも臆せず意見
を交換することが可能であ
り、学生、研修医のみなら
ず、指導医の先生方にとっ
ても非常に教育的なもの
なっています。

最後になりましたが、こ
の場をお借りして初期研修
医の先生、学生の皆さんに
当部の宣伝をさせていただきます
したいと思います。当部で
の研修は、外来診療を通じて
臨床推論の能力を高めて
いくことを目標としていま

す。当部で研修を行うこと
で、高頻度疾患はもちろ
ん、自分の考えが及ばない
疾患に出くわしたとしても
対応できる能力を身につけ
ることができそうです。臨床推
論に興味がある方、私達と
一緒に働きませんか。是非、
当部の後期研修にご応
募ください。

後期研修をはじめ

千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科

高橋 理 彦 (平20)



食道・胃腸外科に出局
して4か月が過ぎました。実
は学生のころは「朝早い」
「手術で長い時間たつてい
ないといけない」「先生が
怖い」など外科については
あまり良いイメージがあり
ませんでした。しかし、実
際に初期研修医として各科
で研修を行ってみると、外
科では患者さんにしたこと
が良くも悪くも一番はつき
りとした形で見え、大
変な時はあつたとしても自
分にとっては最も魅力的な
仕事だと思ふようになりました。
不安はたくさんあり
ましたが、一年目の沼津市
立病院でお世話になった先
生方のすすめもあり、食道
胃腸外科に出局することに
決めました。いまでは7人
の同期とともに毎日忙しく

も、充実した日々を過ごす
ことができていると思います。
市中病院の後期研修と比
べると、たしかに大病院
では検査や手術といった実
際の診療技術を身につける
機会は少ないかもしれませ
ん。市中病院で後期研修を
している同期の話や聞く
と、そういった意味では大
学病院での後期研修はもの
足りない面もあると思いま
す。しかし、週に1回の外
勤ではヘルニアや虫垂炎の
手術は術者としてやらせて
いただける機会もあります
し、大病院でもヘルニ
ア、人工肛門増設、乳房切
除、甲状腺切除などの手
術をやらせていただける機
会があります。術者として
手術を行ってみると、それ
までなんとなく見ていた先
輩の先生方の手術に、実は
様々な気配りや工夫がある
ことに気づきます。正直な
ところこれまで手術の上
手・下手についてはよくわ
かりませんでした。術者

としてやらせていただく機
会を通じて少しずつわかっ
てきたような気がします。
また、術前、術後の症例検
討会を通して各疾患の診
断・治療方針決定のながれ
や手術の内容について系統
だつて勉強する機会もあり
ます。後期研修に入って、
専門家として必要な知識・
技術を基本的なところから
少しずつ積み上げている実
感があります。

今年度から外科は初期臨
床研修の中で選択必修とな
りました。そのため、千葉
大学では外科で研修をする
初期研修医は減少している
ように感じます。最終的
に外科を選ばないにして
も、清潔・不潔の概念や基
本的な創の管理の仕方、内
科治療と外科治療の関連な
ど外科研修で学ぶべき内容
はたくさんあります。大学
病院では学生さんが病棟実
習で外科をまわってきます
ので、一番身近な存在とし
て学生さんに触れ、せめて
初期研修で欲を言えば最終
的な進路として外科を選ん
でもらうべく、外科の魅力
を伝えていきたいと思いま
す。そして、一日でも早く
先輩に憧れられるような外
科医となるべく努力してい
きたいと思えます。

と、そういって、一日でも早く
先輩に憧れられるような外
科医となるべく努力してい
きたいと思えます。

会員から

50研究会のご紹介

昭和50年卒業生を会員とし、毎年1月と7月に開催しているユニークな研究会を紹介させていただきます

野千寿子(佐野医院)、篠

宮正樹(西船内科)の4名、第7回以降は高林克己(千葉大学医学研究院)も加わって現在5名の世話人で運営しています。当初は大学教授または基幹病院院長になられた同級生のお祝いで始められた集まりで

したが、予想以上に参加者が多く、単なる近況報告だけでなく異なる領域で活躍している同級生の業績を聞きたいという機運が高まり、平成18年1月13日第1回を皮切りに研究会の形式で年二回のペースでこれま

で10回開催されました。各方面で活躍している同級生は多いだけに、毎回異なる領域のトピックスを開けるのが楽しみです。また、同級生の集まりという気楽さもあって、気兼ねなく意見交換することができます。

これらのことが魅力的なのか、参加者は千葉県内のみならず、遠くは北海道、九州からも来られ、平均参加人数は30人以上の盛況ぶりが続いています。50研究会

の講演タイトルと講師名を左表にまとめましたので、昭和50年卒業生の活動を知っていただければ幸いです。

(王伯銘)



第8回



第9回



第10回

回数	開催日	講演タイトル	講師名
第1回	2006.1.13	最近の肺結核症	山岸文雄(千葉東病院院長)
第2回	2006.7.8	生活習慣病防止に取り組むNPO活動 肝胆膵外科の進歩	篠宮正樹(西船内科院長) 宮崎 勝(千葉大外科学教授)
第3回	2007.1.13	慢性肝炎治療の最近の動向	横須賀收(千葉大学内科学教授)
第4回	2007.7.7	二分脊椎医療から小児医療へ 低侵襲な脳神経外科治療	伊達裕昭(千葉県こども病院院長) 佐伯直勝(千葉大脳神経外科学教授)
第5回	2008.1.12	小児悪性血液疾患の現況と今後の課題 ヒトの動脈硬化化学-この30年で何が進歩したか?-	沖本由里(千葉県こども病院部長) 上田真喜子(大阪市立大病理学教授)
第6回	2008.7.5	糖尿病を中心とした循環型医療連携について ポストゲノム時代の臨床検査	平井愛山(千葉県立東金病院院長) 野村文夫(千葉大臨床検査科教授)
第7回	2009.1.17	肺癌を切らずに治す-炭素線治療の挑戦- 薬の副作用	馬場雅行(放医研・病院治療課長) 上田志朗(千葉大薬学部教授)
第8回	2009.7.4	臨床に役立つ電子カルテ たこつぼ心筋症	高林克己(千葉大企画情報部教授) 河合祥雄(順天堂大循環器科准教授)
第9回	2010.1.16	梁哲宗先生のめざした漢方 不登校・ひきこもりをどうとらえるか	山口英明(公立陶生病院副院長) 齊藤万比古(国立国府台病院部長)
第10回	2010.7.10	ドクターヘリによる救命救急 Werner症候群からの老化のメカニズム研究を中心に	鈴木紀彰(君津中央病院院長) 村野俊一(下都賀総合病院院長)

追 悼 文

多田富雄先生への追悼文

分化解毒学 徳久剛史(昭48)



本学が生み出した巨星多田富雄先生(昭34)が、平成22年4月21日にお亡くなりになりました。享年76歳でした。多田先生は、インタン修了後に大学院に進学され、免疫病理学の先駆者であった岡林篤教授の下で、遷延感作の病理学を学びました。その間、当時の予防衛生研究所の石坂公成先生のもとで免疫生化学の指導を受けられました。昭和39年に大学院修了とともに、石坂先生からの誘いを受けて米国デンバーの小児喘息研究所へ留学され、「抗抗体の発見に至る研究」に従事されました。石坂先生が学会発表で使われた「抗抗体検出データは、多田先生の背中の皮膚を用いていたので、多田先生はこのデータを解説するとき

「この背中の方が先に世界中の免疫学者に知られることになった」と良く冗談を言われていました。昭和44年に帰国されてから、本格的に「抗抗体の産生調節機構」に関する研究を開始され、昭和46年には世界に先駆けて免疫応答を負に調節するサプレッサーT細胞を発見されました。この発見過程では、当時大学院生であった奥村康先生(昭44・順天堂大学教授)や谷口克先生(昭42・理化学研究所免疫アレルギーセンター長)が多大な貢献をなさいました。

多田先生は、昭和49年に新設された免疫研究部の初代教授に就任されました。翌年には開講後初めての大学院生として現附属病院長の河野陽一先生(昭48)と私(昭48)が入学し、今日に至るまで先生から数多くの貴重なお教えを受けてまいりました。昭和52年には東京大学医学部免疫学教室の教授に就任され、多くの

免疫学者を育成されてこられました。その間、野口英世記念医学賞、朝日賞などを受賞され、昭和59年には文化功労者となられました。さらに東大退官後の平成7年から11年まで、東京理科大学生命科学研究所長として、後進の育成に尽力されました。多田先生は、文化人としても活躍され、自ら小鼓を打ち、現代能の作者として脳死移植や原爆をテーマにした新作能「無明の井」や「原爆忌」などを次々に発表されました。そして、平成5年に「免疫の意味論」により大佛次郎賞を受賞されています。

このように、多田先生は科学の世界において大きな発見をなさり、かつ多くの後進を育成され、さらに文化人として日本人の精神性に大きな影響を与えられてこられました。平成13年に脳梗塞で倒られ、右半身麻痺や構音障害を抱えながらも、パソコンを左手一つで操りながらの創作活動はますます衰えを知らず、平成20年には、「寡黙なる巨人」で小林秀雄賞を受賞されています。同年には、第87回千葉医学会で「教えられたこと、伝えたいこと」と題して特別講演をなさり、医学研究者の理想像を

ご自身の経験を基に切々と説かれ、後輩たちに大きな感銘を与えられました。平成17年ごろから前立腺がんを患われ、5年間にわたる治療の甲斐なく本年4月に

同窓会員著書の紹介

日本小児神経学会 編集
杉田克生・林雅晴 監修

イメージからせまる小児神経疾患50

― 症例から学ぶ 診断・治療プロセス ―

診断と治療社 定価五七〇〇円(税別)



国内国外を問わず、アトラスとして特に稀少な症例の写真、神経画像、神経生理や病理所見など視覚化できる図を掲載した書籍は散見されず。視覚化された図をいくつか組み合わせてクイズとし、問題集的に掲載した書籍あるいは連載した雑誌も見受けられます。ただし、実際に臨床で遭遇した症例の臨床身体所見、各種検査所見などすべての視覚情報を、小児神経専門医がどのように診断し治療を決定するかそのコツを解

永眠されました。ここに、長年にわたる多田先生の暖かいご指導に深く感謝しつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。

例も数多く収載してあります。Boshuizenらはこの現象を「知識の被包化」と呼んでいます。症状、病態生理、疾患などいろいろなレベルで知識が「ファイル」されて診断・治療に活用されていることが推測されます。

本書を読み進めていく中で、従来の知識が整理され構造的に体制化されることを期待します。さらにプライマリーケアに日常従事されている多くの先生方や将来を嘱望される医学生に読まれ、明日への知識となつて活用されるならば、監修した者にとりまして望外の喜びであります。

清水 栄司(平二) 著

認知行動療法の

すべてがわかる本

うつと不安を完治する

第一選択の治療法

講談社 定価一、二六〇円(税込)



認知行動療法は、うつ病や不安障害に対する治療の第一選択です。この本はタイトルどおり、認知行動療法のすべてがわかる本をめざしました。本としては、かなり成功していると思えますので、ぜひお買い求めになって、じっくりとお読みください。

しかし、「認知行動療法のすべてがわかる」ためには、本を読むだけでなく、熟練した認知行動療法の専

門医、専門セラピストといっしょに、認知行動療法を実際にやってみようの法をほかに人にとってもよいものだとすめることができるとき、あなたは、すべてがわかったといえるのです。

認知行動療法の専門家は、患者さんが治療にがんばるとりくめるように、できるかぎりの工夫をしています。患者さんは、自分に知識や技術がないことを心配する必要はありません。でも、少しでも知識や技術があれば、治療がより進むことは間違いありません。そういう意味でも、いろいろな方法で認知行動療法を学ぶのは非常によいことです。

さて、認知行動療法の熟練した専門家は、国内外で非常に不足しています。イギリスでは、希望する国民が認知行動療法を受けられるように、2008年から国家的な巨額の予算をつけて、専門家の養成をはじめました。

いっぽう、自殺者年間三万人超えが10年以上つづき、心の健康問題のため、休職・失職する人が増加する日本では、長く医療費の抑制政策がつづき、とくに心の医療に関しては、非常

に安い料金で放置されたままです。2010年から認知行動療法が一部保険点数化されましたが、まだ不十分です。国民一人ひとりが、良質な認知行動療法を誰もが受けることができる、「健

康で安心して住める社会」の実現を、保険点数や国の予算に反映してもらうように、要望することが重要だと思います。ぜひ、声をあげてください。(まえがきより)

齋藤 篤著

手の多様性
魚からヒトへの軌跡

近代文藝社
定価 一、五〇〇円(税別)

東京女子医科大学附属八千代医療センター
名誉病院長 伊藤 達雄(昭42)



私は肉より魚のほうが好きである。特にブリを始めとする魚のカマはたまらない。その魚の味が凝縮されているので、箸先でつつきながら、骨の裏にひそむ小さな筋肉までほじって食べたい。「手の多様性」と題するこの本は、「鯛のタイ」という章から始まっている。この奇妙な言葉は、鯛の鰓蓋(エラフタ)近辺の骨で、すなわちカマの部分である。ヒトで言えば鎖骨、肩甲骨に当たるものだから、魚類の胸ビレの基部で

ある。本格的な脊椎動物の初期にあたる魚類の胸ビレが、その後の両生類、爬虫類を経て哺乳類の前肢に、そして、サルの手、最終的にヒトの手、指に至る長い道程を、この本は解説している。

したがって、私は魚のカマを食べる毎に、この部分の胸ビレから始まり、箸を器用に扱うことが出来るヒトの手指への発達の過程を思い起こしてしまう。齋藤先生も罪人である。

さて、齋藤先生は、千葉大学医学部整形外科の先輩であり、忙しい診察の中で、多くの美しい絵を同門会誌などにも広く発表されており、本書の中にも先生のスケッチと思われる図が挿入されている。この本で

の手・指の系統発生、そして、機能獲得に至る蘊蓄を傾け、かつ、詳細に文献を引用した記載、そして、臨床医ならではの個々の疾患での具体的な症状や治療など、まさに疾患の理解を深くするものである。骨・神経・筋・腱から血管に至る組織の発生、発達、そして生活環境などによる変異、それらの痕跡が人間にも残っていることなど、大変興味深く読ませていただいた。あらためて、絵画だけでなく、長期間かかったであろう、このような本を書かれた齋藤先生の旺盛な探究心に深く敬意を覚えた。まさに「継続は力なり」である。

手の専門家のみならず、広く運動器を扱う人々に本書を勧めます。もちろん、当センター図書館の蔵書にも加えています。IT化が進んでいる現代、これからのヒトの手指はどのようになるか・・・と問いを馳せ

ます。

海老原雄一氏(昭31) 一百万円
唐澤祥人氏(昭43) 十万円
ありがとうございます。

るのな同窓会
への「奇附」

千葉医学雑誌86巻 4号目次

原 著	Evaluation of Grip and Pinch Strength Difference between the Dominant and Non-dominant Hand in Healthy Japanese Adults Takane Suzuki and Kazuki Kuniyoshi
症 例	胃癌と男子乳癌の同時性重複癌の1例 青柳智義 高石 聡 佐久間洋一 舟波 裕 二村好憲 当間智子 飛田浩司 松村洋輔 山本義一 松原久裕 Ball valve syndromeを呈した体中部の無茎性胃癌の1例 中田泰幸 セレストー RD 渡邊茂樹 大嶋博一 菊地紀夫
研 究 紹 介	循環器画像診断部門 船橋伸禎 小室一成
海 外 だ よ り	Stanford University 留学記 高岡浩之
学 会	第1195回千葉医学会例会・整形外科例会
編 集 後 記	

千葉医学雑誌86巻 3号目次

総 説	骨折骨癒合研究の最近の進歩 — 分子細胞生物学の視点から — 中島 新 山崎正志 高橋和久
原 著	住民健診からみた加齢に伴うメタボリックシンドロームの特徴とその病態 — 市川市基本健診診査の解析(2) — 渡辺東也 小林靖幸 安部幹雄 岩澤秀明 浮谷勝郎 大塚智博 河内山資朗 上白土洋俊 齊藤 彰 佐々木森雄 篠塚正彦 Quantitative analysis for a cube copying test Ichiro Shimoyama, Yumi Asano, Atsushi Murata Naokatsu Saeki and Ryohei Shimizu
症 例	第5腰椎神経根から発生し巨大後腹膜腫瘍を形成した砂時計型富細胞性神経鞘腫の1例 山本陽平 山崎正志 大河昭彦 大鳥精司 古矢丈雄 藤由崇之 川辺純子 山内友規 林 浩一 今牧瑞浦 東出高至 荒木千裕 谷澤 徹 梁川範幸 川名秀忠 石井 猛 高橋和久 急性四肢麻痺および呼吸麻痺により発症した頸髄神経鞘腫の1例 加藤 啓 清水純人 佐藤正樹 染谷幸男 山崎正志
研 究 紹 介	臓器制御外科学 肝胆膵研究室(II) 木村文夫 清水宏明 吉留博之 大塚将之 加藤 厚 吉富秀幸 古川勝規 竹内 男 高屋敷 史 須田浩介 高野重紹 久保木 知 宮崎 勝
海 外 だ よ り	フィラデルフィア留学記 木村敬太
学 会	第1199回千葉医学会例会・ 第9回千葉大学大学院医学研究院胸部外科学教室例会
編 集 後 記	

埼玉るのほな会 第11号 2010年6月

埼玉るのほな 第11号 2010年(平成22年)

目次

ご挨拶	
ご挨拶	伊藤 敏夫 … 1
埼玉県支部総会ご案内	
お知らせ	伊藤 敏夫 … 2
ご案内	井坂 茂夫 … 2
同窓会から	
新みるのほな同窓会館設立事業報告	吉川 広和 … 3
祝(米寿・喜寿)	
喜寿 崑寿を迎えて	阪 付 … 7
話の広場	
随想 本年前期の悩み事	菊地 善秀 … 9
同窓の証(よしみ)	津陽 高徳 … 10
ロコモティブ・シンドローム(運動器症候群)	野口 哲夫 … 11
プライマリ・ケア区として	得丸 孝夫 … 15
地元さいたまの病院に就職して	森内 昭彦 … 16
医局のころ	土屋 興之 … 17
思い出 歴史と旅と心臓と	石川 哲也 … 19
旅 奥国にて	四家正一郎 … 20
石川県小松市の小松製作所を視察する	横田 俊二 … 22
趣味 庭から歸へ	上野 泉 … 25
月面のクレーターいろいろ	杉浦 敏之 … 27
近況報告 深谷赤十字病院紹介	諏訪 敏一 … 28
病院紹介熊谷総合病院	五月女直樹 … 30
幸手総合病院	井坂 茂夫 … 32
連載 男子同窓に入るべし…Mark II	冠木 徹彦 … 33
私の医歴書(5)	門山 周文 … 36
ゴルフ部から	
雨男は誰だ	
—第8回ゴルフコンペの報告—	林田 和也 … 40
埼玉県支部から	
ご挨拶とお祝い	中村 勉 … 42
平成21年度埼玉県支部決算報告	中村 勉 … 42
埼玉県支部規約	… 44
お願い・原稿募集	… 45
表紙写真のご案内	野口 哲夫 … 46
編集後記	… 47

カット：編集委員会

埼玉るのほな

千葉大学医学部るのほな同窓会埼玉県支部

第11号 2010年6月



千葉県るのほな会 2010年7月号 Vol.10 No.1

目次

表紙題字：井出 源四郎氏

巻頭言	三枝 一雄 (S32)	1
報告		
平成21年度千葉県るのほな会総会報告	大濱 博利 (S27)	3
「千葉県るのほな会」会長を 退任するにあたって	大濱 博利 (S27)	5
特別講演		
「貝原益軒の生き方を現代に活かす」	山崎 光夫 (S50)	7
ESSAY		
85歳	渡辺 武 (S27)	14
「白紙の答案」-わが受験戦記より-	三枝 一雄 (S32)	15
Kさんの死	三枝 一雄 (S32)	20
我等青春の群像 (昭36卒は6年制医学部I期生)	青木 謙 (S36)	21
湯島聖堂見学の記	栗原 伸夫 (S38)	25
思い出	阿部 一憲 (S39)	30
昭和の漢方医家高橋道史先生の 「千葉県の思い出」紹介	秋葉 哲生 (S50)	32
半農半医	木元 博史 (S61)	34
俳句		
磯菜摘む	三枝かずを (S32)	35
千葉県るのほな会役員名簿・地区別支部長一覧		36
千葉県るのほな会会則		37
御 願 い		38
編集後記		38
投稿規定		39

千葉県るのほな会会誌



Vol.10 No.1 2010年(平成22年)7月号

平成22年度第1回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成22年4月22日

(木)

場所：東京ステーション
コンファレンス602
B室

出席者

伊藤晴夫(会長)、大井利夫(副会長)、濱田高穂(副会長)、田中光(会計監事)、三枝一雄、坂田早苗、佐藤通、白澤浩、鈴木信夫、瀧口正樹、田邊政裕、角田隆文、中田義隆(佐藤忠夫代理)、吉川廣和、吉原俊雄(敬称略)

白澤浩理事より資料に基づき説明があり、平成21年度決算報告が承認された。

② 監査報告

田中光監事より監査の結果、適正である旨、報告された。

③ 平成22年度事業計画について

瀧口理事より資料に基づき説明があり、前年度に加え以下の計画が承認された。

① 昨年まで行っていたメディカルオンライン事業を中止し、IT・広報関連事業を充実させる。

② 新ゐのほな同窓会館設立(135周年記念) 事業では新同窓会館設立、記念誌発行、「千葉医学の伝統」の言語化を進める。

③ 2011年10月発行予定の同窓会員名簿の作成作業を進める。

④ 同窓会組織化を充実させるため評議員会のあり方について検討する。

④ 平成22年度予算案について

白澤理事より資料に基づき、繰越資金が前年度より減額している現状について説明があった。会議費の増額、メディカルオンライン

事業費中止、ゐのほな修学資金(千葉県に卒後残り地域医療に貢献する学生の支援)の計上、予備費の大幅減額等の説明があり、承認された。

⑤ ゐのほな同窓会賞選考結果について

同理事より資料に基づき、功労賞に家本誠一氏(昭22)、学術賞に上原雅恵氏(平15)、平賀陽之氏(秋田大・平11)、山本正二氏(平4)が選考委員会より候補者として推薦された旨の報告があり、承認された。

⑥ 総会議事等について

資料に基づき、瀧口理事、三枝一雄理事より説明があり承認された。

⑦ 評議員会等の組織化の検討について

瀧口理事より参考資料、ゐのほな同窓会会則に基づき説明があり、評議員会の活性化のため、委員会等による検討を行うことが承認された。

⑧ 同窓会賞のあり方の検討について

同理事より資料に基づき説明があり、千葉医学会賞、猪之鼻奨学会研究助成等、同窓会学術賞と類似の賞があることから、同窓会賞のあり方について委員会等による検討を行うことが

承認された。

⑨ 新ゐのほな同窓会館第一期工事について

工学部・栗生明教授、鈴木弘樹助教および研究室のスタッフにより新ゐのほな同窓会館の概要について資料、建物の立体模型による説明を交えたプレゼンテーションがあった。建物外觀・内部の設計等は、シンボル性、学生・卒業生の交流など人の集える開放性、既存の建物との関係性を重視する点等承認された。

2. 報告事項

(1) 会報発行

鈴木信夫理事より、次号は5月18日に発行予定であることが報告された。また、ホームページに掲載しているオンライン会報についての説明があった。

(2) 新ゐのほな同窓会館設立事業会募金状況について

瀧口理事より資料に基づき、千葉大学基金より建物建設費等の、ゐのほな同窓会寄附金より記念誌発行(約2,000万円)、設計料、人件費等の支出を予定している旨説明があった。引き続き、白澤理事より同窓会基金について説明があり、135周年記念事業において不時の出費の必要性が生じた場合

には、常任理事会における決議により同窓会基金より支弁可能とする旨、総会に諮ることとした。

(3) 理事・評議員選出について

理事、評議員の補充を総会に、常任理事の補充を理事会に諮ることとした。

3. 懇談事項

(1) 「千葉医学の伝統」言語化について

田邊政裕理事より資料に基づいて、デルファイ法によるアンケート調査の結果等から集約した言語化候補文書を再び関係各位に諮り、さらに絞り込みを進める旨、説明があった。

(2) 年次活動について(報告事項)

① 庶務部報告
鈴木信夫理事より、各会議開催や各支部との交流について説明された。

② 事業部報告
同理事より、同窓会賞および学外研究助成の決定、ゐのほな同窓会留學生奨学金授与、ゐのほな同窓会報の年3回発行等について報告された。

③ 平成21年度決算について

① 決算報告
白澤浩理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

④ 役員選出について
瀧口理事より会則第12条

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し



平成22年度ゐのほな同窓会総会議事要旨

日時：平成22年6月26日

(土) 16時

場所：千葉駅ビルペリエ
5階 芙蓉の間
(出席者46名、委任状52名)

三枝一雄理事の司会により、まず物故者(101名)に黙祷を捧げた。大井利夫副会長の辞により開会となり、伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が議長に選出され議事が進められた。

田邊政裕理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

て約100万円の節約になったこと等、平成21年度決算の報告がなされた。

② 監査報告

秋葉哲生、田中光両監事より監査報告があり、決算案が承認された。

④ 平成22年度事業計画について

鈴木理事より会報発行、各地域ゐのほな会への支援、各地域ゐのほな会と本部間との交流、留學生奨学金授与、研究教育助成、IT広報関連事業(オンライン会報の動画の強化)、135周年記念事業、同窓会会員名簿の作成、同窓会組織化の充実、ゐのほな同窓会賞のあり方についての検討、評議員会のあり方についての検討等について説明があり、承認された。

⑤ 平成22年度予算案について

白澤理事より各項目の予算額は、ほぼ例年通りであるが会議費の増額、メディカルオンライン事業費(卒後千葉県下に勤務し、地域医療に貢献する学生の支援)の計上等の説明があり、承認された。

⑥ 役員選出について

瀧口理事より会則第12条

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

白澤理事より資料に基づき説明があった。総務費に関しては会議出席時の日当支弁等により予算を約40万円超えたこと、会報・会誌については予算に対し

に則り説明があり、理事選出が承認された。

②常任理事
同理事より会則第8条に則り説明があり、総会を理事会併催としたうえで、常任理事選出が承認された。

③評議員
同理事より会則15条に則り説明があり、評議員選出が承認された。

(7) 新のほな同窓会館設立事業について(報告事項)
田邊政裕理事より新のほな同窓会館の設計を担当している工学部・栗生明教授の紹介があり、同研究室の鈴木弘樹助教により新のほな同窓会館の概要について資料、建物の立体模型による説明を交えたプレゼンテーションがあった。建物は、多目的ホールを中心にして合宿施設、同窓会等事務室が配され、高さのある象徴的なものであることが説明された。

(8) その他
白澤理事より、135周年記念事業において不測の出費等の場合は、常任理事会における決議を経て同窓会基金より支弁可能とする旨諮られ、承認された。

済陽高穂副会長の辞により、閉会となった。

平成22年度総会において選出された名誉会員

水間 正冬氏 (昭17)	国井 光智氏 (昭21)
海老原雄一氏 (昭31)	檜垣 有徳氏 (昭33)
赤星 至朗氏 (昭34)	紅露 恒男氏 (昭34)
阪 信氏 (昭35)	松井 宣夫氏 (昭38)
吉川 廣和氏 (昭40)	

るのほな同窓会賞表彰式
白澤理事の司会により、功労賞(家本誠一氏)、学術賞(上原雅恵氏、平賀陽之氏、山本正二氏)の表彰式が行われた。伊藤会長より表彰盾が授与された。

記念講演
伊藤会長の司会により、山下洋一郎氏(千葉県医師会顧問弁護士、医療紛争相談センター事務局長)が「医療紛争相談センターの医療ADRについて」と題して講演された。

懇親会
木下昌理事の司会、三枝理事の辞により開会された。伊藤会長の挨拶に続き、渡辺武名誉会長の乾杯ご発声に始まり、同窓会賞受賞者、名誉会員諸氏等からご挨拶を頂いた。新のほな同窓会館の立体模型を懇親会場内に移動し、工学部スタッフから直接詳しい説明を受けることができた。歓談の時を過ごし市村公道理事の辞により閉会となった。

戦争体験記を募集いたします。
原稿は1,400字以内にて事務局まで！
e-mail : info@inohana.jp
投稿お待ちしております。



平成21年度決算報告

収入の部	款 項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対 予 算 額 (円)
	会 費 等	21,400,000	21,166,500	-233,500
	事 業 収 入	5,000,000	5,160,450	160,450
	他 会 計 より 受 入	100,000	133,410	33,410
	寄 付 金	150,000	329,160	179,160
	雑 収 入	25,000	59,830	34,830
	(当期収入計)	26,675,000	26,849,350	174,350
	前年度繰越資金受入	4,948,432	4,948,432	
	収 入 合 計	31,623,432	31,797,782	174,350

支出の部	款 項 目 (節)	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対 予 算 額 (円)
	総 務 費	11,370,000	11,506,435	-136,435
	事 業 費	16,280,000	15,025,165	1,254,835
	法 人 税 等	1,300,000	1,345,300	-45,300
	予 備 費	2,573,432	0	2,573,432
	積 立 金	100,000	100,000	0
	次 期 繰 越		3,820,882	-3,820,882
	支 出 合 計 (A + B)	31,623,432	31,797,782	-174,350

平成22年度予算

収入の部	款 項 目	平成22年度予算額 (円)	平成21年度予算額 (円)	平成21年度決算額 (円)
	会 費 等	21,400,000	21,400,000	21,166,500
	事 業 収 入	5,000,000	5,000,000	5,160,450
	他 会 計 より 受 入	100,000	100,000	133,410
	寄 付 金	300,000	150,000	329,160
	雑 収 入	20,000	25,000	59,830
	(当期収入計)	26,820,000	26,675,000	26,849,350
	前年度繰越資金受入 (B)	3,820,882	4,948,432	4,948,432
	収 入 合 計	30,640,882	31,623,432	31,797,782

支出の部	款 項 目 (節)	平成22年度予算額 (円)	平成21年度予算額 (円)	平成21年度決算額 (円)
	総 務 費	12,450,000	11,370,000	11,506,435
	事 業 費	15,980,000	16,280,000	15,025,165
	法 人 税 等	1,400,000	1,300,000	1,345,300
	予 備 費	710,882	2,573,432	0
	積 立 金	100,000	100,000	100,000
	次 期 繰 越			3,820,882
	支 出 合 計 (A + B)	30,640,882	31,623,432	31,797,782

新るのほな同窓会館設立事業募金状況

(平成22年7月31日現在)

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始めました募金につきまして、下記の方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等におかれましても、なお一層のご支援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

寄付者一覧

(敬称略)

一般個人

片野 鈴枝
久保田勘也
稲瀬 道和
進藤 輝山

医療機関

(医) 大平会嶺井第一病院
可川鉄千葉病院
埼玉厚生連 熊谷総合病院
(医) 社団よつ葉会介護老人保健施設 さかき光陽
(医) 三愛記念病院
(医) 三愛記念そが病院
(医) みはま病院
聖隷浜松病院
聖隷佐倉市民病院
聖隷横浜病院
千葉中央メディカルセンター
ゆげクリニク

企業・法人等

赤星工業 (株)
旭化成ファーマ (株)
あすか製薬 (株)
アステラス製薬 (株)
アストラゼネカ (株)
アルフレックスファーマ (株)
(株) 石渡商事
(株) ウチダ和漢薬
栄研化学 (株)
エスエス製薬 (株)
エーザイ (株)
エース損害保険 (株)

(株) エスアールエル
エルメッドエーザイ (株)
大塚製薬 (株)
(株) 大塚製薬工場
小野薬品工業 (株)
科研製薬 (株)
化研生薬 (株)
(株) 北原防災
キッコーマン (株)
キッセイ薬品工業 (株)
杏林製薬 (株)
興和 (株)

協和醗酵工業 (株)
キリンファーマ (株)
グラクソ・スミスクライン (株)
クラシエ製薬 (株)
クラシエ薬品 (株)
小太郎漢方製薬 (株)
(株) 小山商会 千葉営業所
佐藤製薬 (株)
サノフィ・アベンティス (株)
沢井製薬 (株)
参天製薬 (株)
(株) サンリツ
(株) 三和化学研究所
シェリング・プラウ (株)
塩野義製薬 (株)
白鳥製薬 (株)
ゼリア新薬工業 (株)
第一三共 (株)
大正製薬 (株)
大日本住友製薬 (株)
大鵬薬品工業 (株)
タカイ医科工業 (株)
武田バイオ開発センター (株)
武田薬品工業 (株)
田辺三菱製薬 (株)
(株) 千葉銀行広報室

(株) 千葉京成ホテル
千葉中央会計事務所
中外製薬 (株)
(株) 銚子丸
(株) ツムラ
帝人ファーマ (株)
テルモ (株)
トリアエイヨー (株)
(株) 東葛幸文堂
東京海上日動火災保険 (株)
財団法人 同仁会
東和薬品 (株)
富山化学工業 (株)
鳥居薬品 (株)
ニプロファーマ (株)
日興コーポリアル証券 (株)
日本イーライリリー (株)
日本化薬 (株)
日本ケミファ (株)
日本新薬 (株)
日本製薬 (株)
日本臓器製薬 (株)
日本たばこ産業 (株)
日本ペーリソケインゲルハイム株
ノバルティスファーマ (株)
バイエル薬品 (株)
(株) パイオニア
萬有製薬 (株)
ファイザー (株)
(株) 富士フィルムメディカル
扶桑薬品工業 (株)
プリストル・マイヤーズ (株)
(株) ほてい家
ホテルグリーンタワー幕張
ホテルニューオータニ幕張
マイラン製薬 (株)
丸石製薬 (株)
マルホ (株)

(株) 三井住友海上火災保険 (株)
(株) ミノファージェン製薬
明治製菓 (株)
持田製薬 (株)
(株) ヤクルト
(株) ヤンセンファーマ
ロート製薬 (株)
ワイズ (株)
わかもと製薬 (株)
千葉大学医学部附属病院
臨床医学研究助成会

(有) 丸萬
三井住友海上火災保険 (株)
(株) ミノファージェン製薬
明治製菓 (株)
持田製薬 (株)
(株) ヤクルト
(株) ヤンセンファーマ
ロート製薬 (株)
ワイズ (株)
わかもと製薬 (株)
千葉大学医学部附属病院
臨床医学研究助成会

医学部後援会

浅井 俊治 哲夫
新井 英雄 有里 敬代
飯田 豊 飯田 義三
井窪 保彦 池内 英男
石神 博昭 石田 和弘
和泉みどり 伊東 龍也
井上 憲二 井福 正博
岩花久仁子 海村 昌和
大橋 茂 太田 昌男
大庭 恵 緒方 一
岡本 弘子 奥山 広明
小野 文雄 小谷野 信
小林 洋一 笠間 昭彦
片岡 清 勝俣 賢二
加藤 誠 金子 浩一
上川栄一郎 川端 基彦
菊池 敏美 北爪 秀政
木下 富夫 工藤 琢也
熊谷 武久 蔵田 昌子
黒川 道徳 小曾根卓朗
後藤 喜章 小関 洋男
小西 敏郎 小嶋 清
酒井 雄一 櫻井 茂
佐藤 千鶴 佐藤 恒明

下平 坦 鈴木 壽郎
須賀 秀晃 杉浦 英一
泉水 卓 高浦 和彦
高橋 修 高橋 恒雄
竹本 勝己 田島 啓二
田中 清七 塚田 俊行
坪井 良真 富永 庸平
豊田 弘 豊田 浩史
永井 玉枝 中川 康
中川 洋一 中田 徹亮
名倉謙二郎 東ヶ崎邦夫
日野修一郎 平山 敏雄
広沢 邦浩 廣瀬 俊夫
藤井 康史 藤田 邦臣
堀井 宏志 前田 雅治
松岡 才二 松田 一男
松村 雅生 三田 信明
武藤大二郎 森 豊
山田 雄一 山本 幸一
与儀 実久 吉井 仁実
吉岡 雅之 吉澤 尚嗣
与芝 真彰 若松 英彦
脇田 正実 和田 正英

医学部教職員等

環境影響生化学
鈴木 敏和
神経生化学
山口 淳 久保 武一
薬理学
坂下 育美
発生生物学
川内 大輔 室山 優子
免疫発生物学
細川 裕之 岩村 千秋
山下 政克

救急集中治療医学
仲村 将高
放射線医学
川田 哲也
細胞分子医学
宮城 聡
臨床分子生物学
武川 寛樹
総合診療部
大平 善之
先端和漢診療学寄附講座
関矢 信康 地野 充時
久永 明人
循環型地域医療連携システム学
馬杉 綾子 計良 和範
病理部
谷澤 徹
千葉大医・旧助手会
事務部
清水 富雄 堀江 寛

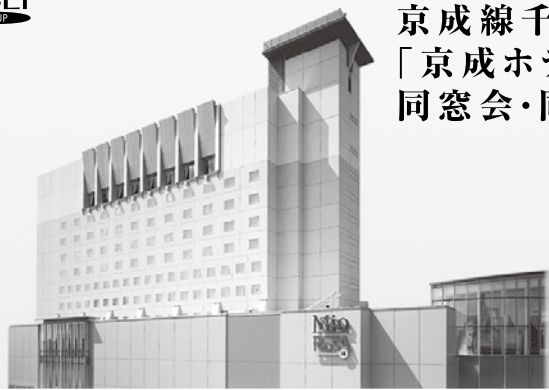
同窓会員

昭15 田中 洋
昭16 菜丸比呂志 渡邊 彦憲
昭16② 倉田 博夫 横江 康夫
昭17 浦野 英夫 森島 猪二
藤江 寛忠 橋本 孝平
昭17 専17 水間 正冬
昭18 吉田 芳樹
昭18 梶山 豊 佐藤 進一
竹蓋荘一郎 田中 進

宮崎 隆次	藤崎 滋	西堀 乙彦	多賀谷 譲	窪谷 満雄	海老原 恒雄	伊東 和人	板垣 修造	昭23 一色	鷺田 一博	福島 溪二	新田 実男	清水 健三	石郷岡 寛	昭22 寛	本間 三郎	中島 浩二	齋藤 豊一	郡山 春男	石原 眞	昭21 眞	鶴澤 壽	今島 浩	専20 浩	渡邊 昌平	近内 康夫	長田 浩	昭20 浩	山崎 衛	池 二郎	専19 義人	平形 義人	清水 衛	井出源 四郎	昭19 隆	来仙 隆	川辺 敏	専18 敏
和田 寛	前田 裕	平岡 眞	奈良 四郎	斉藤 嘉一	九島 璋二	上野 高次	一色 重義		茂又 眞祐	信藤 羊一	千田喜 久雄	神山 英明		三宅 和夫	萩野 裕	佐藤 壹三	国井 光智	大磯 英雄		勝呂 安	久保田亨 一	横地 尚	草間 隆		村島 正博		野際 英雄	北澤 幸夫							山崎 康弘		
葛田 瑞世	越後貫 誠	池田佐 嘉衛	昭25 淳	山本 淳	山川 晋吾	福山 正臣	幡野 永由	中村 彰	土田 功一	下坂正 次郎	河野 正賢	奥野 文雄	大橋 平治	植草富 二郎	石井 貞一	伊佐 博夫	専24 博夫	武藤 滋	菱木 達明	中村 和之	寺島東 洋三	月岡 道雄	高野 俊男	鈴木 文男	小林 準三	石谷 治彦	昭24 治彦	君島善 次郎	宮入 繁夫	中山 重男	竹内 盈	三瓶 善康	香取 郁雄	大平 馨	梅沢 亮	専23 亮	
	佐久間 光史	稲田 正實		佐藤 恒好	山口 寅三	南谷 幹夫	久安 徹	中村 精男	徳政 義和	鈴木 一郎	霜島 正雄	神山 一郎	岡田 宏一	太田廣 三郎	石川 哲也	石井 克巳		福永 和雄	長澤 仁一	中島 令一	土屋 與之	鈴木 直基	佐々木 宣明	木村 康	大林 泰	渡辺 兼司	水沼 三郎	橋本 眞	鈴木 東洋	斎川 俊一	柿栖 米夫	大野 信次					
渡辺 武	三橋 慎一	鍋谷 欣市	中野 清幸	武宮 三三	原 恒男	莊司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源 太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	昭27 達	津村 澄雄	大沢 弘和	専26 弘和	渡部 士郎	大和 祐缸	細田 裕	土手内 守人	久我 哲郎	伊藤 進	阿部 定生	昭26 定生	渡辺 武夫	山崎 義人	宮内謙 二郎	奈良林 定	中野 正義	高木 美典	島田 光重	円城寺 栄	石毛 義治	相磯 敬明	専25 敬明			
	渡辺 勲	本間 康正	長崎 真義	関口 和夫	橋爪 孝男	住吉 稔	櫻井 昭司	大濱 博利	有田 文章	内藤 和穂	小関 芳昌	吉田 敏郎	柳澤 文憲	西宮 脩	武井 稔	大倉 邦夫	石井 淳男	横山 宏	森川 二郎	船曳 甫	長嶋 秀明	中田 弘	竹之内 弘	嶋田 勉	神原 昌言	市川 邦男	青木 宣昭	青木 宣昭									
小林 茂	貴家 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男	秋元 駿一	昭30 駿一	福島 通夫	長谷川 透	中野 練一	富岡 清海	柴田千 葉男	佐藤 忠夫	大原 一夫	荒木 晃	昭29 晃	若杉幹 太郎	吉田 道	山下 泰徳	松本 龍二	平田 正雄	成田 光陽	寺島 克郎	鈴木 正剛	柴崎 晃	小山隆 一郎	熊谷 信夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部田 辰一	昭28 辰一	壬生倉 勝	石橋 源三	専27 源三	
小林 富久	小林 健次	片山 喬	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井多 喜男	浅見 敦		羽生富 士夫	根本 幸一	中塚 正夫	島崎 淳	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大藤 正雄	吉田 恭二	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田 泰介	長谷川 正博	戸賀崎 義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	金子 敏郎	奥井 裕	石川 佳夫	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫				
石川 恭子	相原 茲明	昭33 康敬	横尾 敦夫	牧野 耕治	藤田 真毅	平嶋 毅	野口 照義	夏目 隆一	戸川 清	竹内 達	高橋 幸洋	斎藤 登	石川 正士	有馬 道雄	昭32 道雄	山口 慶三	船橋 茂	辻 輝藏	香田 真一	加藤 繁夫	海老原 雄一	庵原 昭一	昭31 昭一	吉原 一郎	森田 茂	南園 義一	松田三 樹雄	藤山 嘉信	永野 俊雄	中島 和彦	十東 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫		
石川 稔生	安里 洋		依田 勇二	村上 昌利	福田 昌三	野本 昌三	西村 忠雄	中村常 太郎	谷川 久一	高橋 英世	仙波 恒雄	三枝 一雄	大久保 恵司	飯塚 正章	山口 元	森 碧	西原源 太郎	杉山 伸子	桑原 久	加藤 繁夫	小野清 四郎	上原す ゞ子	渡辺 英詩	横田 俊二	村瀬 靖	丸川 和太	古屋 大雄	野本 和男	中野 政雄	富田 裕	滝口 光雄	高橋 康	清水 良平	斉藤 正道			
阪 信	北方 勇輔	海保 允	岡村 隆夫	市村 公道	雨宮 浩	昭35 浩	横山 宏	田口 勝	矢野 桎多	矢崎 光保	原沢寿 三男	野口 徹男	津澤澤 督雄	高木 良章	清水順 三郎	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 伸夫	赤星 至朗	昭34 至朗	吉田 貞利	檜垣 有徳	林 國春	長崎 護	辻 陽雄	高木 學治	清水 文七	石川美 智子	佐藤 俊一	近藤洋 一郎	小林 延年	加藤 直幸	岡本 達也	宇野 一眞	磯野 可一	
柳原 秀三	草刈 隆	神田 敬	軽部富 美夫	大井 利夫	石川 喙	伊藤 文雄	横山 哲夫	山本 成元	谷嶋 俊雄	藤田 昌宏	前嶋 清	関 泰男	中田 富雄	塚原 重雄	谷合 明	塩川 喜之	春日 建邦	植村 研一	石川 克夫	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 正明	川村 昌義	加藤 昌義	小野沢 君夫	岡田 信道	新井 一夫	昭36 一夫	山崎 英雄	村松 準	真島 吉也	堀田と し子	長谷川 鎮雄	中田 益允	鈴木 茂	佐藤 甫夫	
原田 康行	瀬川 昌明	杉岡 全彦	斎藤 璋光	黒岩 幸雄	小野 幸雄	安達恵 美子	石山 淳一	昭37 淳一	横山 健郎	守山 洋一	藤塚 立夫	中田 義隆	塚原 重雄	谷合 明	塩川 喜之	春日 建邦	植村 研一	石川 克夫	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 正明	川村 昌義	加藤 昌義	小野沢 君夫	岡田 信道	新井 一夫	昭36 一夫	山崎 英雄	村松 準	真島 吉也	堀田と し子	長谷川 鎮雄	中田 益允	鈴木 茂	佐藤 甫夫		
福士 和夫	中山 博	岩倉 弘毅	宍倉 正胤	油井真 知子	勝田 貞夫	奥山 隆保	入枝幸 三郎	伊東 治武	吉野 明昭	山崎 修道	淵上 隆	福山 悦男	中島 伸之	谷口 滋	瀧澤 英夫	鈴木 光	白石 博康	齊藤 利隆	近藤 省三	黒田 健昭	栗原 孝子	川村 孝子	加藤 喜市	小越 章平	石下峻 一郎	横山 孝一	谷嶋 つね	増田 善昭	松山 迪也	堀江 眞示	永田 一郎	千野宗 之進	佐藤 通				

古謝 景春	角張 雄二	小野健次郎	大森 忠昭	大河原邦夫	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	若新 政史	宮治 誠	緑川 隆	三木 亮	藤本 重義	林 直諒	野本 泰正	中田 瑛浩	寺嶋 周	楯 二郎	谷 修一	高野 正義	佐藤 裕俊	畔田 浩	栗原 仲夫	北村 温	大和田英美	大木 勲	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38	綿引 義博	油井 信春	山本 駿一	柳沢健一郎	森 豊	堀口 東司	藤森 宗徳					
小林 俊憲	木内 政寛	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井千津子	鯉坂 秀明		渡部 浩二	村山 憲太	嶺井 進	三井 静	松井 宣夫	平形 征	林 惠美	成瀬 孟	鳥羽 剛	寺島 市郎	十河 正寛	玉置 哲也	蘭部 和子	香西 襄	黄田 江庭	金城 和夫	加藤 友衛	大津 裕司	木下 敏子	安達 元明		佐々木 守	吉川 正宏	山口 國行	矢野 靖子	村田三紗子	布施 吉弘						
落合 武徳	王子 明	飯島 一彦	新井 茂郎	昭41	渡邊 攻	山田 勝巳	柳沢 貫一	武者 廣隆	服部 芳夫	野口 眞利	長尾 龍郎	田中 則好	瀧澤 弘隆	黒田 紀子	妹尾 素淵	関谷 宗英	税所 宏光	小澤 弘侷	大木 健資	漆原 昌人	遠山 敬介	青木 至	昭40	米満 道子	山下 武広	山口 正敏	本村八恵子	三浦 徹蔵	深尾 立	原 輝彦	塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫					
若新 洋子	大塚 明彦	大島 仁士	飯島 幸雄		吉川 広和	山浦 晶	石神 敏子	日景 高志	伊藤 ルミ	西村 和子	栃木亮太郎	竹内 龍雄	高野 元昭	曾野 文豊	島 毅	辛 京碩	冠木 徹彦	大本 恭平	海老沼光治	今津 曄	天海 照夫	昭42	竜 良方	安江 万二	御園生正紀	半澤 備	中村 宣生	飯田 龍一	田中 文隆	竹内 豊	高橋 淳一	鈴木 豊	島田 哲男	佐々木徳秀	小林 伸行	桑木 綱一	神谷 努					
磯村 勝美	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	渡辺 道典	林 益子	守屋 秀繁	森田喜崇子	藤田 優	平賀 一陽	比嘉 英磨	服部 孝道	鍋島 和夫	中島 克巳	内藤 準哉	高部 吉庸	谷口 克	更科 廣實	勝俣 剛志	関 隆郎	伊藤 達雄	関 三千代	昭42	渡辺 一男	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	久野 宗寛	北原 宏	唐澤 祥人	梶尾 高根	小澤 俊	網代 成子	伊藤 進				
一瀬 正治	足立 英雄	赤井 寿紀		吉野 紘正	安田 耕作	森田 清	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	忍頂寺紀彰	中村 謙介	宮坂 斉	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	冠木 敦子	片倉 透	大沼 直躬	石井 従道	渡辺 一男	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	久野 宗寛	北原 宏	唐澤 祥人	梶尾 高根	小澤 俊	網代 成子	伊藤 進					
東山 義龍	高良 宏明	須藤 一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	加部 恒雄	奥村 康	遠藤 晴久	石渡 堅一郎	飯塚 武秀	浅野 登	昭44	横堀 直孝	竜 崇正	盛 克巳	堀川 義文	星野 聡	藤原 克巳	高岡 邦子	中嶋 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	久野 宗寛	北原 宏	唐澤 祥人	梶尾 高根	小澤 俊	網代 成子	伊藤 進					
中村 陽子	千本 英世	東山 都紀	辛 秀雄	齋藤 康栄	高地 刀志行	黄田 悦子	河崎 純忠	落合 靖男	岡崎 壮之	内海 武彦	石川 達雄	飯島 信行	浅野 武秀	昭44	横堀 直孝	竜 崇正	盛 克巳	堀川 義文	星野 聡	藤原 克巳	高岡 邦子	中嶋 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	久野 宗寛	北原 宏	唐澤 祥人	梶尾 高根	小澤 俊	網代 成子	伊藤 進				
大森耕一郎	内田 朝彦	今田屋 章	千葉 幸恵	昭46	高穂 裕	渡辺 義二	与儀 純子	向井 将	榎本 純子	宮蘭千代子	林 泰	長谷川 毅	野田 宏子	中山 章	伴野 悠士	寺澤 捷年	滝沢 淳	高橋 正年	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘	菅ヶ谷純弘
萩原 泰祐	大友 一夫	牛嶋 直子	高瀬 直子		渡部 十九六	吉田 光宏	湯原 幹男	宮原 弘次	古川 隆男	平山 博久	花輪 孝雄	橋本 英明	永岡喜久夫	中野 義澄	天神 弘尊	千見寺 勝	高橋 長裕	住吉 徹是	杉山 吉克	黒田 重史	北島 忠昭	梅津 亮二	伊藤 文二	家二 憲二	家里 憲二	安藤 政男	相田 尚文	和田 力	渡辺 孝太郎	吉田 明弘	山岸 厚子	矢田 洋三	細井 湧一	萩原 敏子	林 恒男	西村 則之	西島 浩	西村 則之				
脇坂 正美	力武 知之	松川 正明	西野 卓	長尾 啓一	中嶋 征男	若山 曜子	相馬 光弘	鈴木 光二	菅野 勇	栗原 正	菊池 友允	河西 九三	岡 信男	大野 一英	榎本 貴夫	稲葉 憲之	石川 詔雄	若林 康之	吉田 孝宣	矢端 幸夫	柳橋 京子	保坂 瑛一	船津 恵一	平野 和哉	濱野 頼隆	丹羽 有一	田畑陽一郎	多賀谷 茂	高瀬 直人	鈴木 幸弘	櫻井 昌権	大川 昌権	木口 博之	神崎 頼仁	磯部 洋子	加来 俊貞	加来 俊貞					
渡辺 滋	若山 芳彦	山森 秀夫	檜垣 進	西川 哲男	中村 和郎	唐司 則之	田井 東風	鈴木 信夫	勝呂 徹	真山 和徳	北沢 栄次	加藤 誠	尾形 実	大西久仁彦	大岩 孝司	宇津見和郎	伊藤 文憲	与那嶺和子	高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 展将	佐藤 澄雄	後藤 澄雄	文 隆雄	川村ひろみ	久田 俊和	浜崎 智仁	中村 欽哉	谷口 環子	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	結東 温	木澤 功	金田 庸一	門井 隆司	門井 隆司				
鈴木 亮二	五月女直樹	菊地 紀夫	金子 作蔵	入江 澄子	岩津都希雄	有田 正明	青柳 光生	昭49	山本 義一	森山 紀之	南 昌平	保阪重莉沙	千見寺ひろみ	広瀬 彰	野村 馨	内田 宏子	永山 洋子	内藤 威	千葉 次郎	高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 展将	佐藤 澄雄	後藤 澄雄	文 隆雄	川村ひろみ	久田 俊和	浜崎 智仁	中村 欽哉	谷口 環子	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	結東 温	木澤 功	金田 庸一	門井 隆司	昭48	浅野 誠	浅野 誠	
高原 善治	佐藤 武幸	木村 純	田辺恵美子	片桐 誠	江原 正明	石神 博昭	浅井 隆善		横山 淳一	山路 正文	守田 政彦	保高由美子	前川 岩夫	千見寺 徹	羽鳥 文磨	野口 哲夫	灘岡 壽英	中村 明	徳久 剛史	高安 賢一	早乙女 勇	鈴木 晴彦	坂口 明	白井 厚治	小林 道生	河野 陽一	木村 博子	君塚 五郎	金塚 順二	笠貫 順二	小川 富雄	大内 美南	上村 重明	岩本 逸夫	上村 加代子	旭 俊臣	旭 俊臣	旭 俊臣				

黒崎 門山 小野 小野 岩崎 森本 赤嶺 昭51 山本 山岸 村野 松谷 増田 野積 高橋 永瀬 富谷 土佐 隆 篠宮 佐々木 齊藤 小出 川口 鴨下 沖本 大塚 麻生 秋葉 昭50 弓削 三上 鳩貝 西山 中村 田町 田中 武井	知道 周文 和則 純一 秀昭 典子 正裕 博憲 文雄 俊一 和徳 政久 邦義 道子 久雄 寛順 元英 正樹 健 義雄 英昭 博 光典 裕 哲生 一郎 恵只 文彦 眞理子 文子 誓一 眞 泉	伊古田 川村 鏡味 小野 大塚 井坂 秋田 横須賀 山本日 森野 宮崎 増村 野村 西山 小林 中尾 戸塚 高林 勝呂 篠遠 佐伯 後藤 木村 河内 上村 大森 入江 秋谷 渡辺 森川 渡辺 野村 西山 土佐 田辺 田中	裕子 健二 勝 元子 芳克 茂夫 徹 賀 收 樹 勝 明 勝 文夫 徹 けい子 清一 慶子 彰 直勝 信昭 道雄 公平 景文 氏康 徹 順子 眞一 博子 恭子 裕孝 純一 政裕 正	徳重 武永 鈴木 小林 石川 荻野 宇田 上田 石川 新井 昭53 山口 松前 升田 古川 檜前 中山 中沢 高橋 須田 小林 久保 北澄 香村 尾崎 稲田 五十嵐 昭52 山本 八木 蒔田 紅谷 林 中山 高橋 佐藤 坂本 児島	克彦 博 文晴 敏生 てる代 幸伸 一 眞男 一 孝幸 吉雄 薫 大典 肇 敏信 純 一 忠雄 衡一 正彦 晴生 辰男 和夫 順子 明 春幸 朝行 和久 兼重 薫 孝行	得丸 塚本 高良 菅沢 川俣 織田 遠藤 上野 伊藤 安 山田 湊 松岡 堀部 福田 林田 中村 塚田 高田 鈴木 小林 木村 香村 海宝 大迫 奥野 由佐 松村 蒔田 布施 南波 寺崎 篠塚 斎藤 小松	幸夫 哲也 健司 寛健 泰男 成人 和男 泉 公道 徳純 善重 明 和夫 薫 和也 勉 和美 俊一 孝雄 彰 正幸 玲子 雄一 政智 妙子 俊和 勉 国伸 秀樹 美伸 太郎 正彦 典男 健祐	加藤 小川 伊藤 足立 昭56 湯口 前田 氷見 蓮沼 野田 永井 田中 杉原 潮平 久木 長 有 昭55 渡辺 宮本 林 宮崎 田川 鈴木 篠遠 萬 石毛 五十嵐 昭54 渡邊 若林 吉原 吉澤 山上 塚田 花岡 仲田	邦彦 利隆 博 武則 恭利 勝久 寿治 桂司 和男 將道 篤 茂孝 芳樹 親重 雄一 隆光 恒家 恒彦 北見 泉 雅敏 良一 繁樹 仲子 俊行 淨 正治 俊雄 卓 岩男 純子 明宏 勲生	亀井 笠松 岡 伊藤 羅 宮崎 藤田 氷見 橋本 長島 鳥居 砂田 柴橋 栗原 神崎 植松 吉田 福田 中村 巽 高野 下条 近藤 小林 今関 伊澤 和 李 吉田 山口 森 三瀧 中村	克彦 紀雄 陽一 隆 智靖 三忠 明 京子 尚武 通 俊男 莊一 和男 哲人 武史 弘道 幾夫 眞人 眞一郎 眞一 正一 直樹 福進 文夫 英次 二郎 元浩 英生 哲生 照男 忠道 弘	森田 丸山 武城 日野 長門 田中 滝口 鈴木 平井 今田 加藤 池田 昭58 和久 山口 古川 中村 丹沢 龍野 白澤 下山 小森 小川 ピアス 天野 昭57 湯山 三浦 松村 福武 松本 長谷川 中村 友利 道永 鈴木 繁田 川副	昌男 浩 英明 剛 義宣 泰弘 裕一 俊英 紀子 進 雄一 政文 眞一 卓秀 敬芳 清吾 秀樹 一郎 浩 眞彦 功夫 眞 高 穂高 琢夫 正義 太郎 敏夫 俊一 潔 広志 秀憲 麻里 裕子 美香 泰成	山本 宮副 星岡 深沢 西村 豊崎 田島 高木 品田 近藤 亀山 石川 山 守月 幡野 角田 酒井 角谷 下山 篠崎 川島 大嶺 岩井 吉川 森永 松村 堀内 福井 馬場 永寫 中島 武内 瀧口 清水 座間	修一 一郎 明 毅 元伸 哲也 和幸 一也 良之 克則 伸吉 信泰 友典 理 彦 文 美 直子 直人 克己 利彦 直路 正治 哲文 千恵子 啓 博行 章 薫 一彰 重康 正樹 俊行 秀一
---	--	--	--	---	--	--	---	--	---	--	--	---	--	---	---



京成線千葉中央駅直結

「京成ホテルミラマーレ」はアクセス抜群！
同窓会・同期会にぜひ、お役立て下さいませ。



東京ディズニーリゾート	約55分 (専用バス)	約30分 (京成線・京成バス)	幕張メッセ
羽田空港	60~80分 (空港高速バス)	約65分 (空港高速バス)	成田空港

京成ホテルミラマーレは、東京ディズニーリゾート®・グッドネイバーホテルです。



京成ホテルミラマーレ

〈ご予約・お問い合わせ〉 TEL:043-222-2111

www.miramare.co.jp

ミラマーレ

検索

三橋 麗子	腫瘍内科	宇野沢隆夫	生命情報科学
足立 公代	心臓血管外科	田村 裕	松宮 護郎
奥田 桂子	越後貫道子	飯寄 奈保	手術部
川島柳太郎	久原 厚生	総合診療	生坂 政臣
小林千鶴子	佐久間 淳	大森 栄	北田 光一
及川 貞	須田 恵	先端和漢	笠原 裕司
多田 式江	寺田 洋臣	43クラス会	らぶらるのほな同窓会
馬場 勇次	日暮 協	五窓会(専23)	八千会代表大沢弘和(専26)
矢沢 孝文	米満 裕	葉々会	昭和61年卒同窓会
伊藤 俊夫	伊東 久夫		
精神医学			
日下 忠文			
放射線医学			
荒居 龍雄			
遠山 富也			
胸部外科学			
恒元 博	吉野 一郎		
細胞分子医学	太田 要生		
岩間 厚志			
循環病態医学			
江原 和枝	小室 一成		
杉林 昭男	元山 妙子		
宮内 郁枝	諸岡 信裕		
臨床分子生物学			
石山 信之	鶴澤 一弘		
内山 清春	大木 保秀		
小河原克訓	小野 可苗		
木村 孝雪	工藤 逸郎		
大川 和子	坂本 洋石		
佐藤 匡司	椎葉 正史		
嶋田 健	翠川 鎮生		
盛永 智子	横江 秀隆		
先端応用外科学			
海宝 雄人	久保田 亨		
佐久間洋一	篠原 靖志		
神宮 和彦	原田 昇		
牧野 治文	元山 逸功		

お詫び

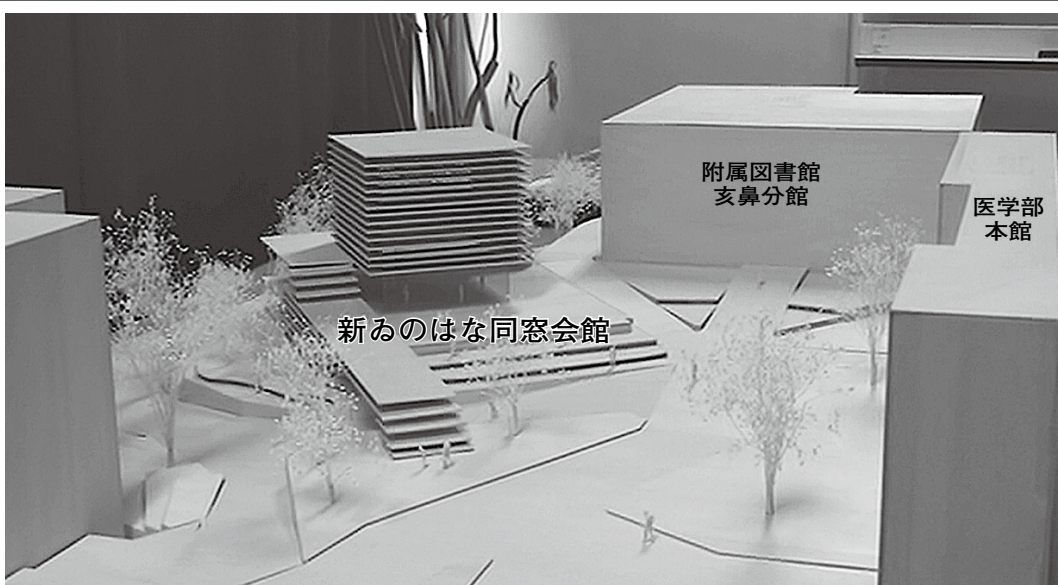
154号に掲載されました「新るのほな同窓会館設立事業募金状況」に、ご寄附いただいた一部の方のご芳名が掲載されませんでした。ご迷惑をおかけいたしました関係各位の皆様には深くお詫び申し上げます。



新るのほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

2010. 7. 31 現在

寄附者	千葉大学基金		るのほな同窓会寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	107	42,724,000	13	2,790,000	120	45,514,000
教職員(元職員も含む)	148	18,162,000	110	3,130,861	258	21,292,861
同窓会会員	1,343	107,125,000	845	36,861,745	2,188	143,986,745
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合計	1,664	172,849,000	1017	45,512,606	2,681	218,361,606



新るのほな同窓会館模型

千葉大学医学部 創立135周年記念事業

新るのほな同窓会館は、現在の図書館前の駐車場に、80名程度の講演会が可能な多目的ホールと、その北側に同窓会事務室(千葉医学部、るのほな奨学会を含む)、西側に学生用の合宿施設(60畳)が建設される。

「千葉医学の伝統」言語化プロジェクト

135年の千葉大学医学部の歴史を振り返り、次の100年を構想して「千葉医学の伝統」を言語化するという目的で本事業が2008年10月にスタートしました。千葉大学医学部の卒業生など関係する多くの先生方から、様々なご意見をいただきました。その後、3回の意見募集を経て、「千葉医学の伝統」は「獅胆鷹目」、「人間の尊厳」、「まず、始めること」に集約されました(詳細はるのほな同窓会のHPをご参照下さい)。これらをもとに「次の100年を構想する千葉医学の伝統」を言語化する作業を学内言語化プロジェクト委員会で行ってまいります。

ます。9月から実施設計がスタートし、今年中に完了する予定です。2011年4月から工事が着工し、1年かけて竣工、引渡しとなります。2012年度中には学生が自由に利用できる同窓会館が再建されることとなります。

雑文雑談 牢内の一服盛の話

石出猛史(昭52)

旧幕時代小伝馬町牢屋敷で、権力者にとつて都合の悪い収監者が毒殺されることがあったという。これを牢内の一服盛という。幕府の御教寄屋坊主(江戸城内でお茶の接待をする役目)河内山宗俊の話が有名である。天保六歌撰の一人として、歌舞伎狂言で知られるようになった人物としてよいであろう。

一服盛の理由として、當時幕府が禁じていた富籤を御三家の一つ水戸徳川家が持つてゐることを知り、強請つたために水戸家が手を廻したものだといわれている。幕府の牢屋に収監されている宗俊を幕府に知られることなく、毒殺することができるといふ問題が生ずる。

幕末の生存者の談話を集めた『史談会速記録』に新恒蔵という人物の記述がある。「従前一服と云ふ事は掛かりく(の)奉行から、囚獄石出帯刀に内命を下し、牢内の名主に命じて施行致します由」と述べている。これに対して、幕末から明治維新時にかけて南町奉行所を実質的に取り仕切った

といわれる元与力佐久間長敬は、「一服盛るためには、牢屋敷の囚獄・同心・医師・牢名主など何人もが関与することになる。秘密を守るなど難しくなる」と同様の手続きについて反対の結論を述べている。牢内における劣悪な栄養衛生環境のために、病死・衰弱死するのだという。『速記録』の別の項には、明治維新時牢内での死亡者数は日に平均して17人にのぼったとある。

ところで一服盛の話はあつても、用いられた薬剤名を記したものは皆無といつてよい。江戸学研究の大御所故三田村鳶魚翁によると、牢内の一服盛に用いられたのは、房州砂であるという。房州砂とは館山市北条付近で産する磨き砂で、江戸時代龍腦・丁字を加えて歯磨に使われた。鳶魚翁によると、「モツソウ(牢内で支給される飯)に入れる。一箇月くらいかかって青ん膨れて死んでしまふ。」とあるが、これは牢内での一般的な衰弱死の経過でもある。房州砂に毒性は無いであろう。

人事異動

准教授 和漢診療学

並木 隆雄(昭60)
(寄附講座教員より)

講師 小児病態学

藤井 克則(平2)
(同助教より)

消化器内科

岡部真一郎(平2)
(同助教より)

放射線科 植田 琢也(平6)
(同助教より)

環境労働衛生学 土地 実礼(平12)
(同助教より)

先端応用外科学 阿久津泰典(山形大)
(同助教より)

他大学教授就任 中村 清吾(昭57)

昭和大学医学部乳腺外科 林 和彦(昭61)
東京女子医科大学 化学療法緩和ケア科

おくやみ

- 林 武夫(昭12)
- 木村 正之(昭14)
- 小張 一峰(昭15)
- 小林 貞夫(昭16)
- 鈴木 秀男(昭16)
- 星野 一郎(昭16)
- 佐藤 俊(新潟大昭16)
- 水野 重恒(岩手大昭16)
- 宮下 隆二(昭20)
- 月江 理(昭20)
- 杉本 五郎(昭22)
- 前田 実(昭22)
- 窪谷 満雄(昭23)
- 嶋村 欣一(昭23)
- 信国 英一(昭24)
- 大谷 彰(昭24)
- 齋藤 郁郎(昭24)
- 伊藤 彬男(昭25)
- 本村 宏(昭25)
- 安井 成美(昭25)
- 平川 達(昭26)
- 石橋 源三(昭27)
- 木下 安弘(昭28)
- 羽生富士夫(昭29)
- 土橋 弘道(昭30)
- 柏木 登(昭32)
- 夏目 隆一(昭32)
- 常泉 吉朗(昭33)
- 堀田とし子(昭35)
- 巨田 康祐(東医大昭37)
- 伊藤 俊一(昭38)
- 渡辺 伸宏(昭39)
- 三橋 敏男(岩手大昭42)
- 西能 竝(金沢大昭43)
- 中村 明(昭48)
- 森崎 信尋(昭50)

るのなな同窓会賞受賞候補者応募要項

第十六回(二〇一一年度)るのなな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者
①学術賞 本会員で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得後の層からの応募を歓迎いたします。

②功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学るのなな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰
①学術賞 (三件以内) 盾および副賞(総額二百万円程度)を贈呈します。
②功労賞 (三件以内) 盾および薄謝を贈呈します。

三、応募方法
所定の申請用紙により、二〇一〇年十二月一日から二〇一一年一月三十一日までの間に申請して下さい。

四、受賞者の決定
選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇一一年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのなな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先
千葉大学医学部内 るのなな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

編集後記

記録破りの猛暑が続く毎日ですが日本中で熱中症の大騒ぎといったこの頃です。るのななキャンパスも医学部と病院を結ぶいわゆる「連絡道路」で現在建築工事が行われており我がキャンパスの美しい緑が大分削られて新たな研究ビルが建築中であります。そのため「連絡道路」の行き来に際してまともに日差しを浴びての医学部・病院間の通勤通学(?)に皆参っております。今回のるのなな同窓会報155号の編集委員もそんな猛暑の中8月19日に開催されましたが、いっつになく大勢の委員の参加で盛り上がった論議が出来たように思います。本同窓会報でも多くのるのなな同窓会の方々の教授就任や病院長就任のご挨拶が載せられています。同窓会員の皆さんの活躍を知れる事は大変嬉しい気持ちになります。また自分自身も頑張ろうと鼓舞されるような気がするのはないでしょうか。また会員の方々の計報も大切なお知らせの場ともなっており貴重なツールの役目も果たしていると思われまふ。このるのなな同窓会報の役割を認識しさらに充実した紙面にすべく編集委員一同頑張っていこうと考えております。同窓会員の皆様にも是非積極的にこの会報に投稿などにご参加いただき、共にこの会報を更に魅力あるものにしていくように今後ともご協力をお願いしたいと思います。

宮崎 勝(昭50)